

第4章

データの取り込みと出力

『スーパーマップル・デジタル10』の魅力は、多様なデータを取り込むことができ、また出力できる点にもあります。専用のダウンロードサービス“まっふるダウンロードサービス”から各種の情報を地図上に反映することができるほか、GPS ユニットや au の携帯電話、カーナビゲーションとの連携が

可能です。本章では、データの取り込みと出力について解説するほか、カスタム情報や地図情報をメールで送信する方法についても説明します。より便利に『スーパーマップル・デジタル10』を使うために、これらの機能について詳しく見ていきましょう。

- 4-1 まっふるダウンロードサービス 115
- 4-2 さまざまな情報の取り込み 120
- 4-3 作成した情報の出力 149
- 4-4 作成した情報のメール送信 160



取り込みと出力ができる情報（形式）

取込

■まっぷる ▶ P.115

インターネットを通じて「MAPPLE 観光ガイド」の最新ガイド情報をカスタム情報としてダウンロードできます。

■カスタム情報 ▶ P.123

パソコンに保存されたカスタム情報を、現在開いているカスタム情報ファイルに対して追加取り込みできます。

■デジカメ ▶ P.126

デジタルカメラの撮影写真などさまざまな画像ファイルを、地図上に配置できます。

■あしあと ▶ P.138

auの携帯電話で生成された「au あしあとデータ」を、折れ線のカスタム情報として取り込むことができます。

■分布図 ▶ P.141

Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上に分布状況を表示します。

■棒グラフ ▶ P.146

Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上に棒グラフを表示します。

出力

■テキスト ▶ P.149

スーパーマッブル・デジタルで作成したカスタム情報を、カンマ区切りのテキストファイルとして出力できます。

■カーナビ ▶ P.152

Panasonic製カーナビ用のポイントデータファイルを、カスタム情報として出力できます。

■地図画像 ▶ P.156

地図をさまざまな形式の画像ファイル（*.bmp、*.jpg、*.png、*.gif）として出力することができます。

■カスタム情報メール ▶ P.160

カスタム情報が記入された地図を、カスタム情報ファイルとしてメールに添付して送信できます。

■ケータイURL ▶ P.162

現在の表示位置を、携帯電話用地図サービス「MAPPLE 地図（ちず丸）」のリンクとしてメールで送信します。

■テキスト ▶ P.120

カンマなどで区切られたテキストファイル内の情報を、カスタム情報テキストとして取り込むことができます。

■RCX ▶ P.125

Pocket Mapple Digitalなど他のソフトとの間で、パスワード付きのカスタム情報の受け渡しを行なえます。

■GPS ▶ P.132

GPS機器などから取得したログファイルを、折れ線のカスタム情報として取り込むことができます。

■カーナビ ▶ P.140

Panasonic製カーナビ用のポイントデータファイルを、カスタム情報として取り込みます。

■円グラフ ▶ P.143

Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上に円グラフを表示します。

■RCX ▶ P.151

Pocket Mapple Digitalなど他のソフトとの間で、パスワード付きのカスタム情報の受け渡しを行なえます。

■HTML ▶ P.154

カスタム情報テキストと地図画像などの情報を、HTMLファイルとして出力することができます。

■略地図 ▶ P.158

ルート上の必要な情報のみを抽出した地図を生成することができ、クリップボードにコピーもできます。

■地図画像メール ▶ P.161

地図から必要なエリアを切り出し、画像ファイルとしてメールに添付して送信できます。

■PMD ▶ P.164

スーパーマッブル・デジタルで使用している地図を、Pocket Mapple Digital用の地図として出力できます。

4-1

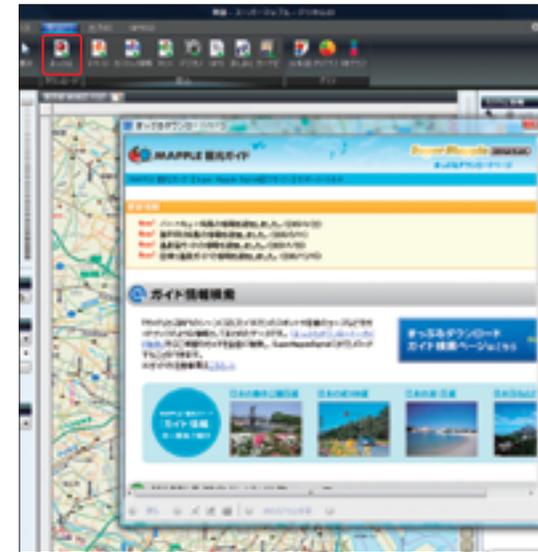
まっぷるダウンロードサービス



まっぷるダウンロードサービスは、旅行やレジャーに関する「MAPPLE観光ガイド」のガイド情報や路上駐車取締情報など、さまざまな情報をスーパーマッブル・デジタルにダウンロード

できる無料サービスです。ダウンロードした情報は、カスタム情報として地図に取り込まれます。多くの情報を取り込んで、名所の調査や旅行のプランニングなどに役立てましょう。

まっぷるダウンロードページにアクセスする



インターネットに接続した状態で、リボンの「取込」タブから「ダウンロード」グループの「まっぷる」ボタンをクリックします。するとカスタム情報プレビューが開き、「まっぷるダウンロードページ」のトップページが表示されます。Webブラウザと同様に、ページ内のリンクをクリックすることで別ページにアクセスできます。MAPPLE観光ガイドの情報をスポット単位で取得する場合は、検索バーの「まっぷる」から行ないます（P.63-P.66参照）。



Point

まっぷるダウンロードサービスについての注意

まっぷるダウンロードサービスはインターネットのWebページを利用したシステムです。そのため、本書のP.115-P.119で解説しているものとデザインや操作方法、サービス内容が変

わる場合がありますのでご注意ください。また、まっぷるダウンロードサービスはソフトの発売日から約3年間利用可能です。

ガイド情報を取得する

1 検索条件を設定する



旅行のシーンに応じたイチオシのスポットや定番のコースなど、ガイドブックのような情報としてまとめたデータをダウンロードできます。トップページで「ガイド検索ページ」をクリックしたら、キーワードや観光エリア、旅行テーマから検索条件を設定しましょう。その後、設定項目の下にある「検索」をクリックして検索を開始します。また、「クリア」をクリックした場合は設定した検索条件が初期状態に戻ります。



Point ガイドとは？

ガイドとはMAPPLE観光ガイドにおいて、観光名所やレストラン、ホテルといったさまざまな観光スポットを、テーマやコースなどの形としてまとめたものです。なお、ダウンロードできるのは、MAPPLE観光ガイドに「まっぶる公式ガイド」として登録されたものだけになります。

2 入手したいガイド情報を選択する



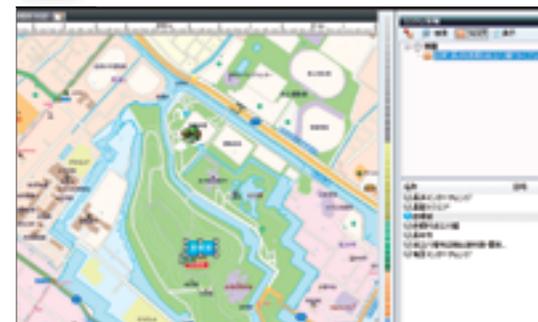
検索条件に該当するガイド一覧が表示されたら、ページをスクロールさせて気になるガイドを選びます。11件以上が検索された場合は、ガイド一覧の右上・右下にあるページ数や「次の10件」をクリックすればほかのページに切り替えることができます。ガイドを選択後、すぐに情報をダウンロードするのではなく、「詳細情報を見る」をクリックしてガイドの内容を確認しておくといでしょう (P.118 参照)。

3 ガイド情報をダウンロードする



入手するガイドが決定したら、検索結果一覧にあるガイド名か「詳細情報をダウンロードする」をクリックします。これだけで、ガイドの中にある各スポットの情報を一括で取り込むことができます。また、引き続き他のガイドの「詳細情報をダウンロードする」をクリックすることで、ガイドを連続してダウンロードできます。ガイドの取得を終了するときは、画面右上の「閉じる」をクリックしてください。

4 地図上に情報が表示される



ダウンロードが完了すると地図上にスポット情報が表示されます。作業バーにガイドのフォルダが追加されるので、その中から目的のスポットをダブルクリックすれば地図の場所を移動させることができます。「移動」モードで地図上のスポット名をクリックすると、各種情報を掲載したカスタム情報プレビューが開きます。ただし、まっぶる検索からのダウンロードと異なり、写真などの詳細情報までを含まないため、カスタム情報印刷ではそれらの情報を印刷することができません。





Point

MAPPLE観光ガイドで詳細情報をチェック

「詳細情報を見る」をクリックするとInternet ExplorerなどのWebブラウザが起動し、「MAPPLE観光ガイド」のページが開きます。そこでは所在地、電話番号、料金、交通といった基本情報のほか、地図や写真、クチコミ情報なども閲覧できます。また、表示されているタグ記述をコピーして貼るだけで、ガイドの概要をご自分のブログやWebページで表示することができます。「MAPPLE観光ガイド」では会員登録によって、さらに豊富なサービスが利用可能になります。登録は完全無料であり、トップページ(<http://www.mapple.net/>)からすぐに行えます。



MAPPLE観光ガイドの会員になろう

MAPPLE観光ガイドで会員登録（無料）すると、自分だけの専用ページ「マイページ」を持ち、さらに数多くのサービスを利用することができます。MAPPLE観光ガイドに登録した情報、投稿したクチコミや写真、お

気に入りの登録した情報などの管理は、ユーザーそれぞれのマイページから行ないます。マイページは情報を管理するだけでなく、投稿の状況やお気に入りの一覧などを見て楽しめるレイアウトにもなっています。

■マイページ



MAPPLE観光ガイドを利用するユーザーとコミュニケーションを取ったり、写真投稿や旅行記といったサービスに移動できます。

■旅行記の編集



投稿した写真や日記、クチコミを日付でまとめて旅の記録として保存したり、他のユーザーに紹介できる機能です。

■マイマップ設定



クチコミを投稿したり、オススメスポットを登録したりするとオリジナルのマイマップが自動的に作成されます。

■スポット登録



MAPPLE観光ガイドに掲載されていない、お気に入りの観光地やお店などのスポットの情報を投稿することができます。

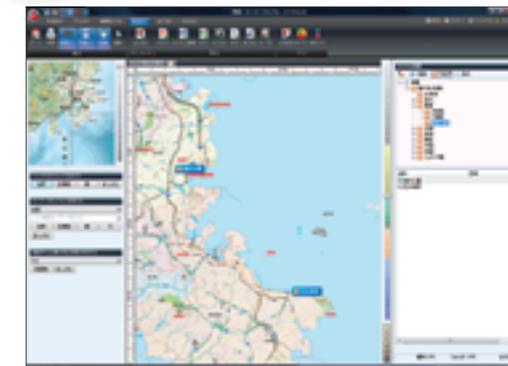
MAPPLE観光ガイド特集情報を取得する

1 コンテンツを選択する



季節情報をはじめとする、「MAPPLE観光ガイド」の特集コンテンツに掲載された情報をダウンロードできます。トップページで「MAPPLE観光ガイド特集・コンテンツ」にある「バーベキュー特集」や「温泉宿ガイド」などのコンテンツを選択してカスタム情報のダウンロードを開始します。ページデザインやメニューは変更になる場合がありますのでご注意ください。

2 地図上に情報が表示される



ダウンロードが完了すると地図にコンテンツ情報が表示されます。この場合、コンテンツを丸ごとダウンロードするので、全国の情報が表示されることになります。特定のエリアで情報を探るときは、作業バーのフォルダ内を検索して目的のエリアを指定しましょう。地図上のスポット名をクリックすると、各種情報を掲載したMAPPLE観光ガイドのページが開きます。「MAPPLE観光ガイド特集情報」は、写真などの詳細情報までを含んでいません。そのため、カスタム情報印刷ではそれらの情報を印刷することができません。



Point

カスタム情報の表示方法

作業バーの「表示」ボタンにて、地図ウィンドウに表示するカスタム情報を制御することができます。「すべて表示」「フォルダ直下を表示」「フォルダ・サブフォルダを表示」「すべて非表示」の4パターンの表示方法が用意されているので、状況に応じて使い分けましょう。

4-2

さまざまな情報の取り込み



スーパーマップル・デジタルでは外部からさまざまな情報を取り込むことによって、表示する情報を追加していくことができます。取り込み可能な情報は幅広く、テキストファイル形式住所録、カ

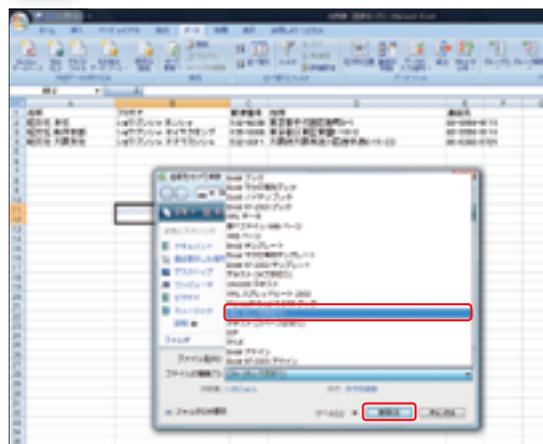
スタム情報ファイル、カスタム情報交換ファイル、デジタルカメラの画像、GPSログファイルなど多岐にわたるのが特徴です。各種情報の取り込みはリボンの「取込」タブから実行します。

テキストファイルを取り込む

Excelや年賀状ソフトなどのアプリケーションで作成した、住所文字列や緯度経度情報を持つテキストデータは、カスタム情報テキストとしてスーパーマップル・デジタルに取り込むことができます。また、GPS折れ線情報（他

のアプリケーションから出力した、複数の連続する緯度・経度のみ入ったテキストデータ）も取り込むことができます。なお、対応するファイルは(*.csv)もしくは(*.txt)形式に限られています。

1 CSV形式のファイルを作成する



Excelで住所録などを作成した場合、通常の保存形式（Excelブック(*.xlsまたは*.xlsx)形式）のままでは、スーパーマップル・デジタルに取り込むことはできません。ファイルをハードディスクへ保存するときに、保存形式を「CSV（カンマ区切り）形式」に設定しておきましょう。このとき、「テキスト（タブ区切り）形式」の場合でも取り込みは可能です。

Point
測地系について

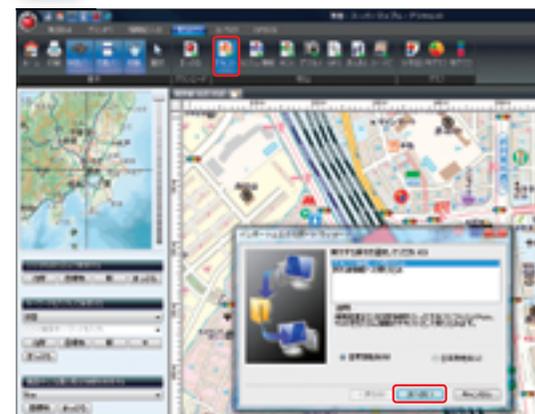
スーパーマップル・デジタルでは、世界測地系と日本測地系の両方の測地系に対応しています。日本測地系とは、明治時代に全国の正確な1/50,000地形図を作成するために整備され、改正測量法の施行日まで使用されていた日本独自の測地基準系を指します。一方の世界測地系は、世界で共通利用可能な位置の基準です。測地系の変更は、クイックアクセスバーの「設定」から行なうことができます。

世界測地系と日本測地系の詳しい違いにつきましては、国土地理院のホームページ (<http://www.gsi.go.jp/>) をご覧ください。

地図の測地系は、ステータスバーに表示されています。



2 「取込」グループの「テキスト」をクリックする

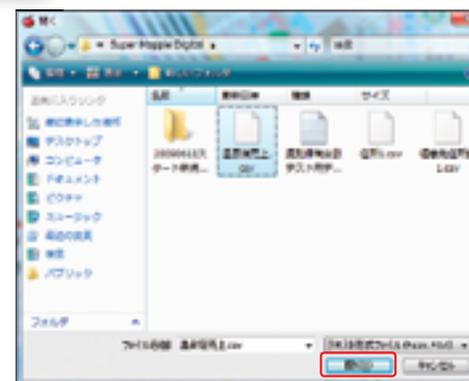


「取込」グループの「テキスト」ボタンをクリックして、インポートとエクスポートウィザード画面を表示させます。「テキスト情報への取り込み」または「折れ線情報への取り込み」を選択し、測地系を世界測地系と日本測地系から指定して「次へ」をクリックします。

Point
テキストとGPS折れ線

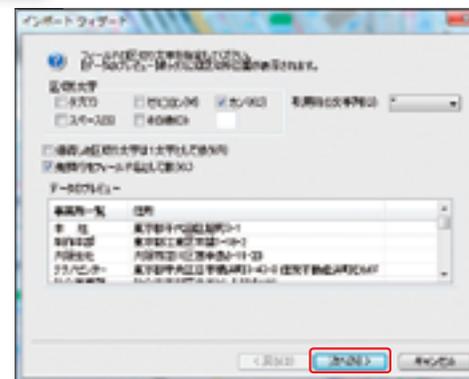
「テキスト情報への取り込み」ではカスタム情報テキストとして、「折れ線情報への取り込み」では折れ線として取り込みます。

3 目的のテキストファイルを開く



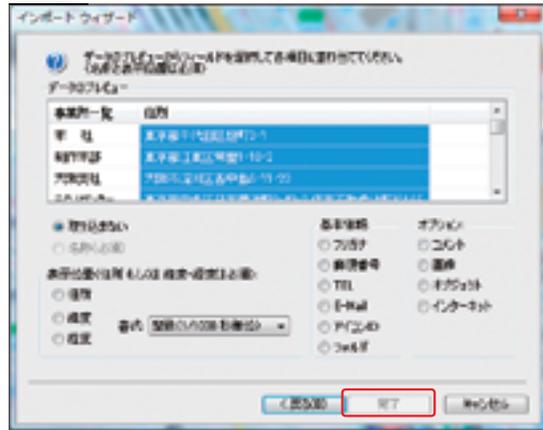
パソコンに保存されている(*.csv)もしくは(*.txt)形式のテキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。

4 区切り文字を選択する



ファイルを開くとインポートウィザード画面が表示されます。「区切り文字」でテキストファイルの区切り文字を選択します。先頭行に項目名が入力されている場合は、「先頭行をフィールド名として扱う」にチェックを入れます。「次へ」をクリックし、次のインポート設定に移行します。

5 各項目をカスタム情報の項目に割り当てる



テキストデータの項目名とカスタム情報の項目名の関連付けを行ないます。「データのプレビュー」にある各項目名をクリックし、「表示位置」や「基本情報」から該当するカスタム情報の項目名をクリックします。「オプション」を選択した場合、カスタム情報プレビューで対応する位置に表示されます。

テキストの場合は、名称と位置情報（住所もしくは緯度・経度）の項目は必須となります。なお、住所文字列をキーとした位置情報の取り込みの場合、一度に取り込めるデータは200件までです。

折れ線情報の場合は、緯度・経度のみを選択することになります。

6 カスタム情報が作成される



テキストの場合は住所録の各データが取り込まれ、取り込んだ住所もしくは緯度・経度の位置にカスタム情報として表示されます。[移動] ボタンで地図上のカスタム情報をクリックするとカスタム情報プレビューが開き、郵便番号や連絡先などの付随情報を確認することができます。なお、住所による取り込みで「大字」「丁目」まで該当しなかった場合は警告が表示されます。「番」「号」までの該当がなかった場合は、警告が表示されずに「丁目」などの代表位置に配置されます。

折れ線情報の場合は、点線表示での折れ線が生成されます。

Point

フォルダごとに分類したデータの取り込み

県単位などに分けて住所録を取り込みたい場合は、「/北海道/」「/青森県/」のように半角スラッシュで囲まれたデータを作成し、インポートウィザードで基本情報の「フォルダ」と関連付けを行ないます。インポート時にフォルダ単位に分け

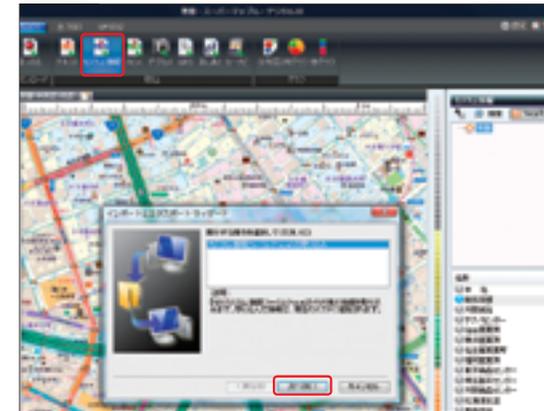
ていなくても、カスタム情報一覧リストから右クリック→「新規フォルダ」で新規フォルダを作成し、フォルダ単位にデータを整理することもできます。

カスタム情報ファイルを取り込む

「カスタム情報ファイル」の取り込みを利用すれば、パソコンに保存したカスタム情報を現在開いている地図（カスタム情報ファイル）に追加表示できます。複数のカスタム

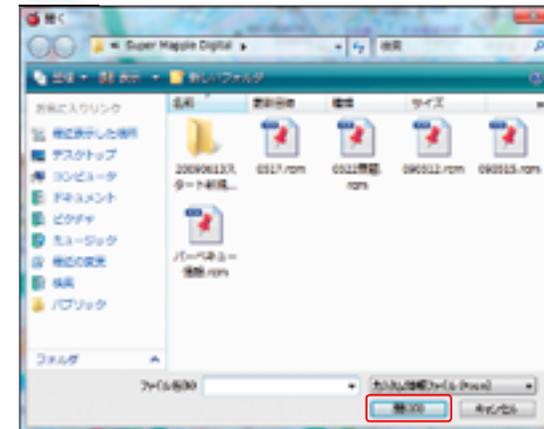
情報ファイルに分かれた情報を、1つのファイルに整理したいときに役立てましょう。なお、取り込めるファイルは(*.rcm)形式に限られています。

1 [取込]グループの[カスタム情報]をクリックする



取り込みを開始するときは[取込]グループの[カスタム情報] ボタンをクリックして、インポートとエクスポートウィザード画面を表示させます。ウィザード画面が表示されたら、「カスタム情報ファイル(*.rcm)の取り込み」を選択して「次へ」をクリックします。

2 目的のカスタム情報ファイルを開く



パソコンに保存されている(*.rcm)形式のカスタム情報ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

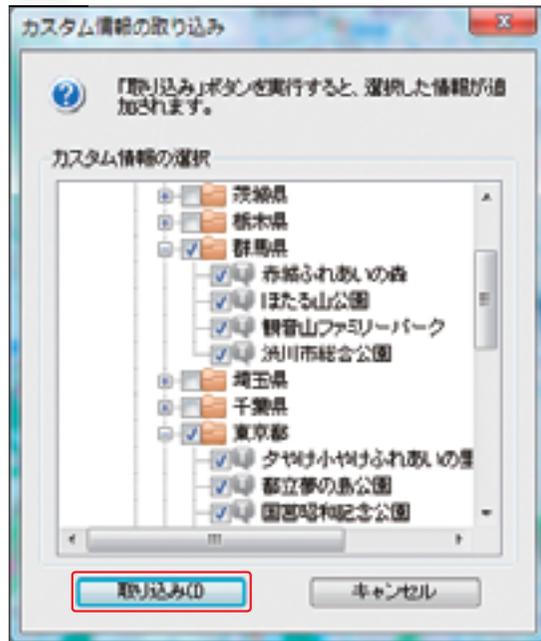
Point

スーパーマップル・デジタルを2つ起動してカスタム情報を移動させる

スーパーマップル・デジタルをそれぞれ別のカスタム情報を開く形で2つ起動し、片方のカスタム情報をすべて選択した上、もう一方で貼り付けを行なうと1つにまとめることができま

す。ただし、この方法の場合、フォルダ構成がコピーできず、ルート(一番上の階層)にコピーされますのでご注意ください。

3 取り込み対象を選択する



「カスタム情報の取り込み」画面が表示されるので、取り込み対象とするフォルダおよびサブフォルダ、情報にチェックを入れます。最初はすべてが選択された状態なので、必要ないものはチェックを外していきましょう。フォルダのチェックを切り替えることにより、そのフォルダに属するサブフォルダ、情報のチェックも一括で切り替わります。

4 「取り込み」ボタンをクリックする



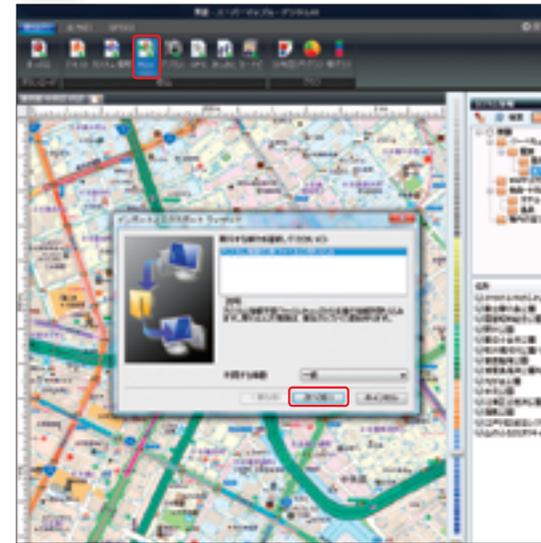
「取り込み」ボタンをクリックすると取り込みを開始し、選択したカスタム情報が追加されます。これで、2つのカスタム情報ファイルが1つのファイルに整理されました。カスタム情報が正常に取り込まれたかどうかを、作業バーやカスタム情報プレビューで確認してみましょう。

カスタム情報交換ファイルを取り込む

カスタム情報交換ファイルとは、外部機器とカスタム情報データの受け渡しを行なうためのファイルです。このファイルを利用すれば、Pocket Maple Digitalなどとの間

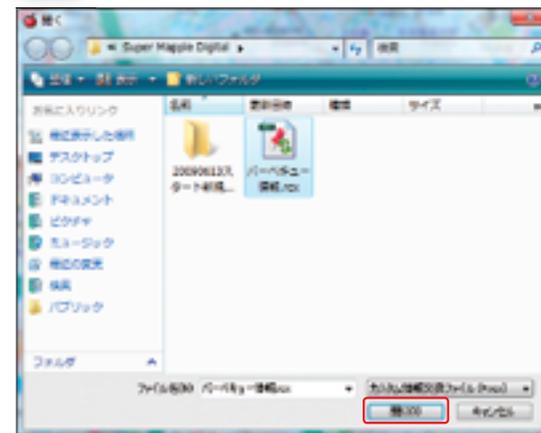
で、パスワード付きのカスタム情報をやり取りできるようになります。なお、取り込めるファイルは (*.rcx) 形式に限られています。

1 [取込]グループの[RCX]をクリックする



カスタム情報交換ファイルを取り込むときは、[取込]グループの[RCX]ボタンをクリックします。インポートとエクスポートウィザード画面が表示されたら、「カスタム情報交換ファイルの取り込み」を選択し、「次へ」をクリックします。

2 目的のカスタム情報交換ファイルを開く



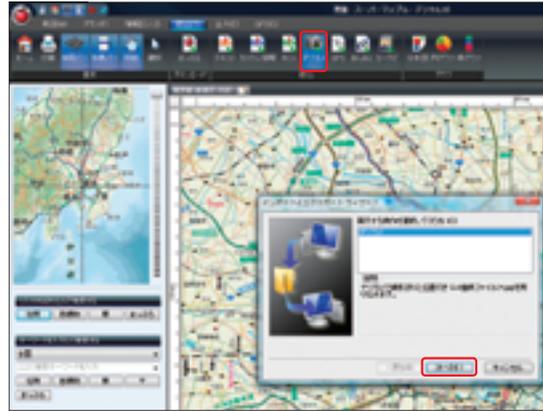
パソコンに保存されている (*.rcx) 形式のカスタム情報交換ファイルを選択し、「開く」をクリックします。カスタム情報交換ファイルにパスワードが設定されている場合は、パスワード入力画面が表示されます。入力したパスワードが間違っている場合は、カスタム情報交換ファイルを取り込むことはできません。

画像ファイルを取り込む

デジタルカメラで撮影した写真など、さまざまな画像ファイルをカスタム情報として取り込み、地図上に配置することができます。また、撮影場所などの位置情報付き画像の

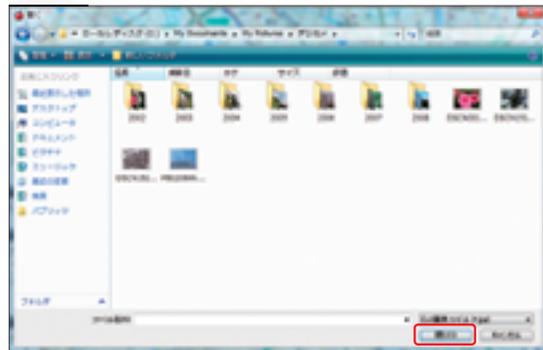
場合は、自動的にその位置へ情報が作成されます。これを利用し、旅行で訪れた場所に貼り付けてその行程をプランニングしておくことで旅行のアルバムが完成します。

1 [取込] グループの [デジカメ] をクリックする



画像ファイルを取り込むときは、[取込] グループの [デジカメ] ボタンをクリックします。インポートとエクスポート ウィザード画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

2 目的の画像ファイルを開く



パソコンに保存されている (*.jpg) 形式の画像ファイルを選択し、「開く」をクリックします。複数の画像ファイルを取り込みたい場合は、複数のファイルをマウスのドラッグ操作で選択してから「開く」をクリックしてください。



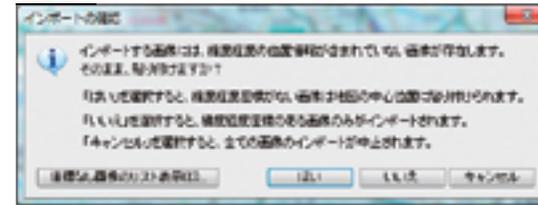
Point

ドラッグ&ドロップで直接貼り付けも可能

[取込] のメニューから操作しなくても、画像を地図上に直接ドラッグ&ドロップすることで取り込むことができ、その場合はドロップした地点にサムネイルが表示されます。また、位

置情報付き画像ファイルをドラッグ&ドロップすると、撮影した場所に自動で画像が置かれます。

3 インポートの確認で処理を設定する



緯度・経度の位置情報が含まれていない画像をドラッグした場合、インポートの確認画面が表示されます。各メニューの説明を確認し、処理を選択してください。また、「座標なし画像のリスト表示」をクリックすると、緯度・経度座標がないファイルの一覧を確認できます。クイックアクセスバーの [設定] → [カスタム情報(2)] タブ内にある「画像を取り込む際、自動的に住所のフォルダへ振り分ける」にチェックを入れておくと、位置情報付き画像は自動生成された住所フォルダに振り分けられます。

4 地図上にサムネイルが表示される



カスタム情報テキストとして、ドラッグした画像のサムネイルが地図上に作成されます。画像をサムネイルではなくテキストやアイコンで表示したい場合は、作業バーか、地図上のカスタム情報を選択した状態で右クリックメニューの [プロパティ] を選び、[表示内容] タブにある [ラベル表示の設定] から変更できます。



Point

サムネイルとは？

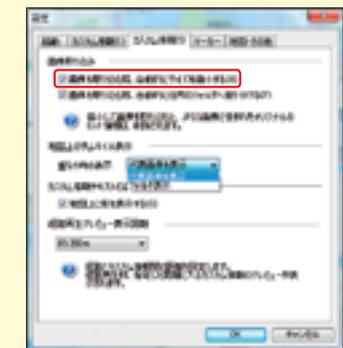
サムネイルとは本来は「親指 (thumb) の爪 (nail)」という意味で、見本として縮小させた画像を意味します。



Point

画像のサイズを縮小しておこう

デジカメ画像をそのまま取り込むとファイルサイズが大きくなりすぎて、うまく位置表示できないことがあります。その場合は、クイックアクセスバーの [設定] → [カスタム情報(2)] タブ内にある「画像を取り込む際、自動的にサイズを縮小する」にチェックを入れてください。なお、自動的にサイズを縮小して画像ファイルを取り込む場合、撮影機材などの保持していた情報が一部失われる可能性があります。



5 画像の位置を修正する



地図上に表示された画像の位置は自由に修正することができます。まず【基本】グループの【選択】ボタンをクリックし、修正したいサムネイルを選択します。そして任意の場所へドラッグ&ドロップすれば修正完了です。集約されたサムネイル画像の位置を移動するときは、ラベル表示の変更をして (P.127のSTEP4) から動かしましょう。なお、位置情報付き画像の位置を修正する場合はP.129を参照してください。

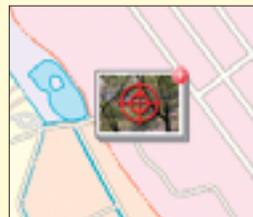
6 カスタム情報の基本情報を変更する



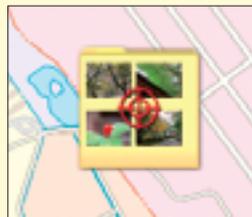
デジカメで撮影した画像はパソコン側で変更しないかぎり、ファイル名がナンバーになっています。そのため、地図に取り込んだ際、表示されたカスタム情報から画像内容を判断しにくい場合があります。そこで、作業バーにあるカスタム情報を右クリックし、「プロパティ」の【基本情報】で名称を変更しておきましょう。必要に応じて、フリガナや住所なども入力してください。

Point 集約表示スタイル

複数画像を一度にインポートしたり、縮尺を引いた表示にした場合、サムネイル画像は集約表示されます。クイックアクセスバーの【設定】→【カスタム情報(2)】タブ内にある「重なり時の表示」で、表示スタイルを「代表画像を表示」か「フォルダ表示」から選択できます。



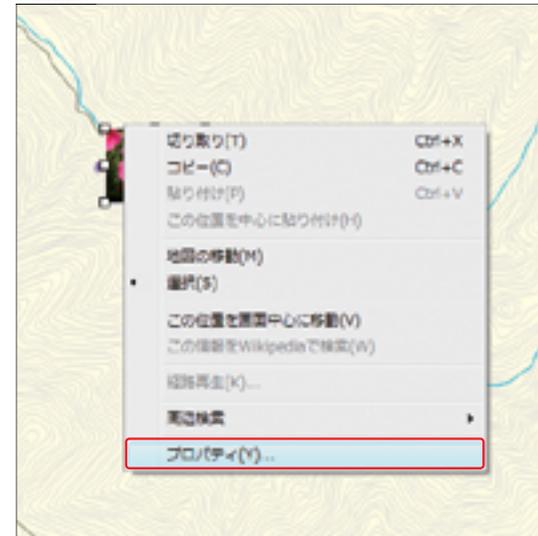
代表画像表示



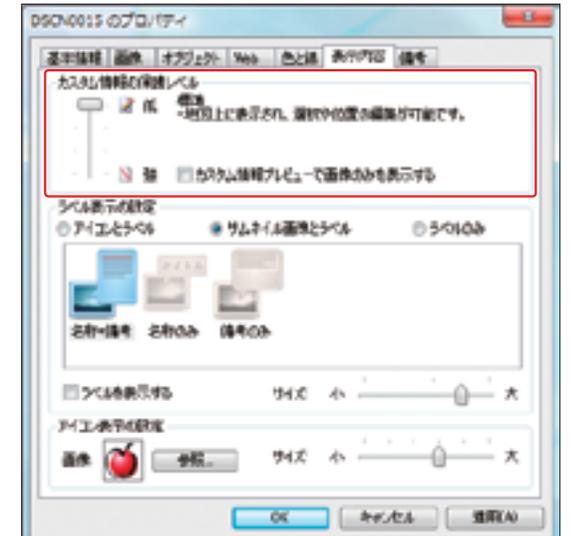
フォルダ表示

位置情報付き画像の位置を修正するには

1 カスタム情報のプロパティを表示する

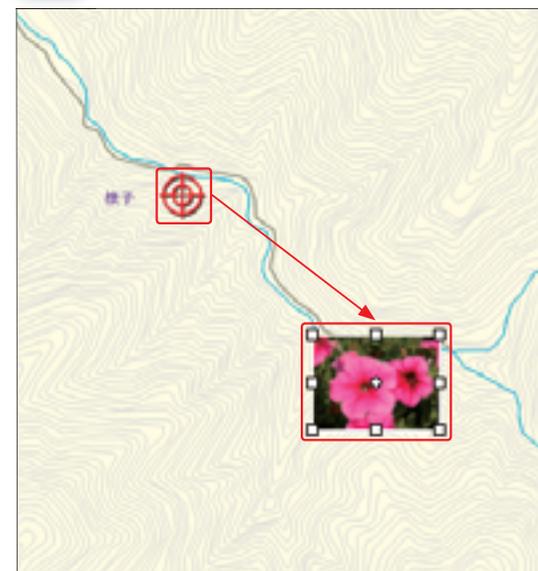


緯度・経度の位置情報が付加されたデジカメ画像を取り込んだ場合、そのままでは位置を修正できません。位置を修正するには、まず作業バーにあるカスタム情報を右クリッ



クして「プロパティ」を選択します。そして【表示内容】タブを選び、【カスタム情報の保護レベル】でバーを一番上にスライドします。

2 画像を正しい位置にドラッグする



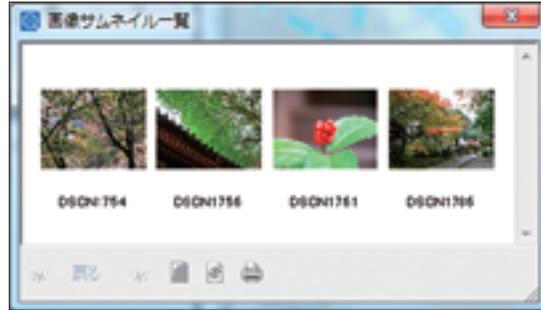
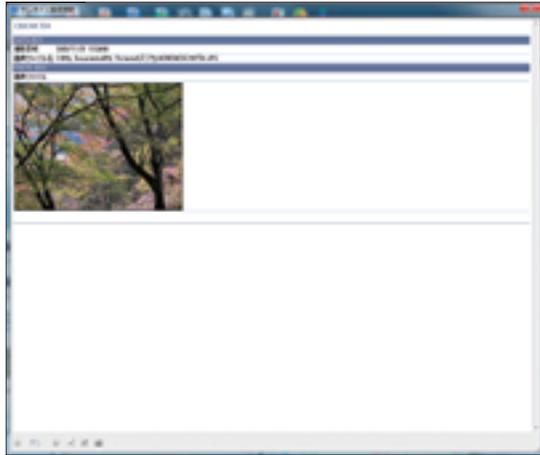
STEP1で位置情報の編集を許可したら、【基本】グループの【選択】ボタンをクリックし選択モードにします。次に修正する画像を選択し、地図上でドラッグして移動させましょう。

Point 位置を移動させる場合のコツ

本ページのように画像のままでも移動させることは可能ですが、一度テキスト表示にして移動させることで、より正確な位置に配置することができます。表示設定の変更はP.127を参照してください。

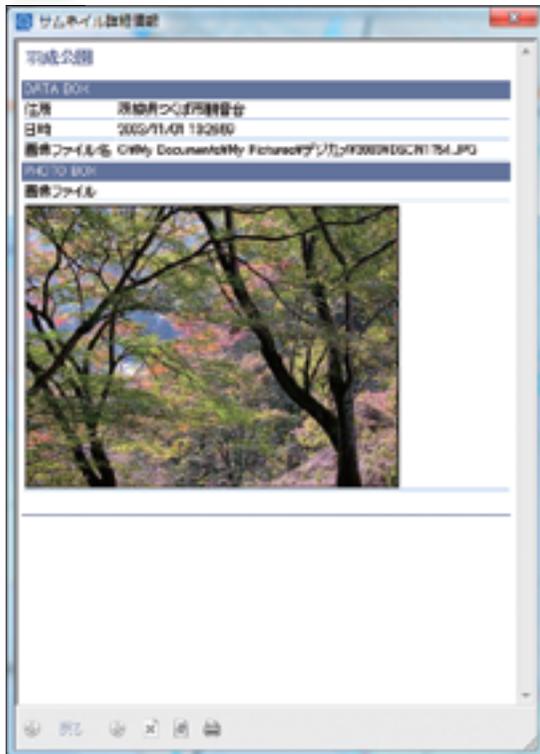
サムネイル画像を閲覧する

1 サムネイル画像をクリックする



地図上のサムネイルを [移動] ボタン  でクリックすると、カスタム情報プレビューが開いて元の画像が表示されます。サムネイルが集約表示の場合はクリックでサムネイル一覧が表示されるので、そこから目的の画像を選択します。

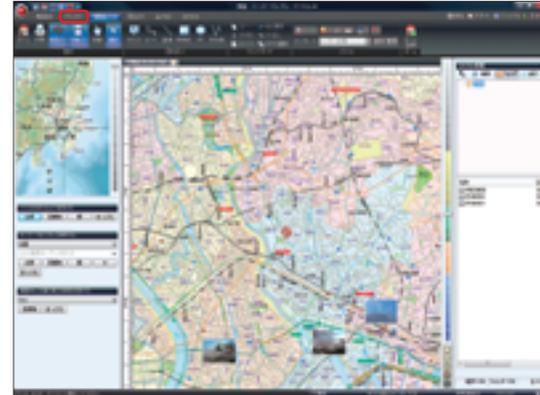
2 プレビュー内容を設定する



カスタム情報プレビューにタイトルや撮影日時など画像以外の情報も表示させたいときは、作業バーにあるカスタム情報を右クリックし、「プロパティ」を選択します。次に [表示内容] タブから、「カスタム情報プレビューで画像のみを表示する」のチェックを外します。

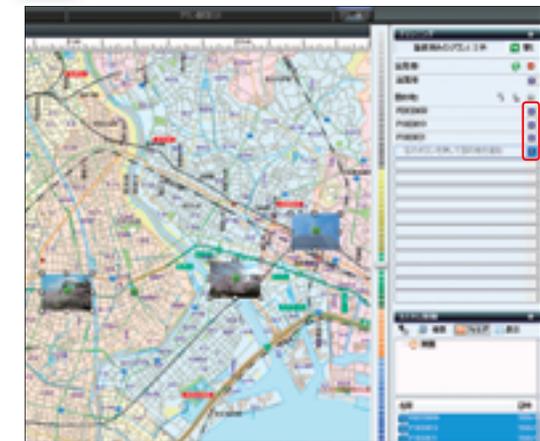
画像からプランを作成する

1 プランニングを開始する

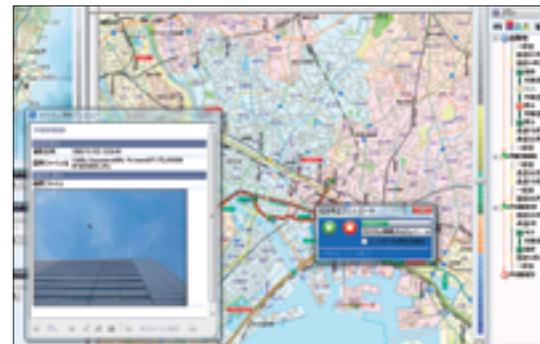


カスタム情報として登録した画像は、プランの出発地や目的地に設定できます。リボンの [プラン] タブを選択し、P.98から解説した要領でプランニングを開始しましょう。

2 出発地と目的地を設定してプランを実行する



出発地と目的地の設定時、プランニングポイント編集ボックスの右側にある  ボタンをクリックして「カスタム情報」を選択します。そして表示されるカスタム情報一覧から、該当する画像を選択します。目的地の順番は上下の矢印アイコン   で入れ替えられるので、旅行の順番に並ぶように調整しましょう。そして出発地と目的地の設定を終えたら「プラン実行」をクリックします。プランニング結果が表示されたら、経路再生をクリックして画像を表示させてみましょう。



Point
画像の位置

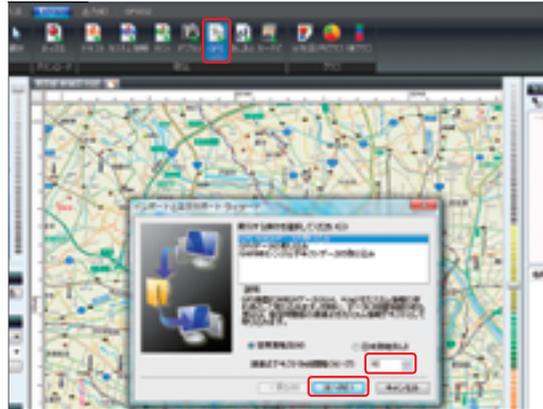
サムネイル画像の位置が道路から離れすぎていると、大きく迂回したルートになることもあるので注意しましょう。

GPSログ-NMEAデータを取り込む

ほかのアプリケーションでパソコンに保存したGPS機器のログファイルなどをスーパーマップル・デジタルにGPSログのカスタム情報として取り込むことができます。

(* .txt) もしくは (* .log) 形式のNMEAデータを取り込む際、データに時間情報がある場合は通過点情報も同時に設定します。

1 [取込] グループの [GPS] をクリックし、NMEAを選択する

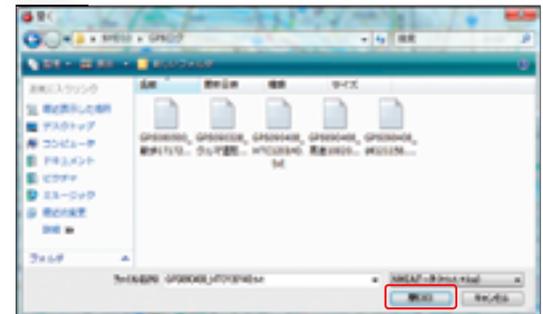


[取込]グループの [GPS] ボタンをクリックして、インポートとエクスポート ウィザード画面を表示させます。次に「GPS NMEAデータの取り込み」を選択後、測地系を世界測地系と日本測地系から指定し、通過点のカスタム情報テキストの作成間隔を設定して「次へ」をクリックします。

Point 通過点テキスト作成間隔

通過点テキスト作成間隔を任意に設定することで、GPSログの途中経過が視覚的に分かるようになります。なお、間隔を0分に設定すると通過点テキストは作成されません。

2 目的のGPSログファイルを開く



パソコンに保存されている (* .txt, *.log) 形式のNMEAデータファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 GPSログがカスタム情報に追加される

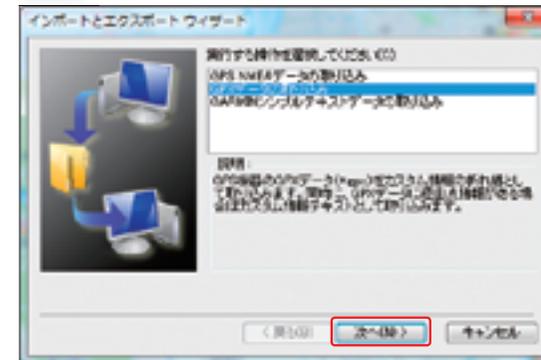


GPSログのデータが取り込まれ、GPSログのカスタム情報 (点線) と開始点・終了点、そして設定間隔ごとの経由点テキストが表示されます。

GPSログ-GPXデータを取り込む

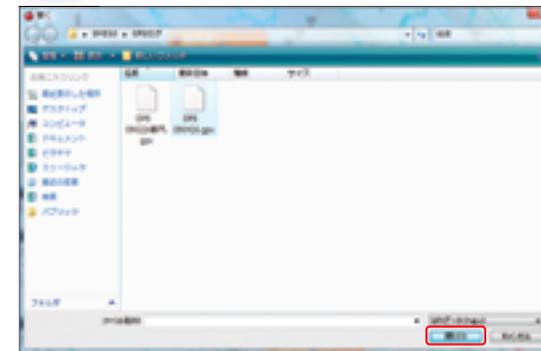
(* .gpx) 形式のGPXデータをカスタム情報のGPSログとして取り込みます。

1 [取込] グループの [GPS] をクリックし、GPXを選択する



[取込] グループの [GPS] ボタンをクリックして、インポートとエクスポートウィザード画面を表示させます。次に「GPXデータの取り込み」を選択し、「次へ」をクリックします。

2 目的のGPSログファイルを開く



パソコンに保存されている (* .gpx) 形式のGPXデータファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 GPSログがカスタム情報に追加される

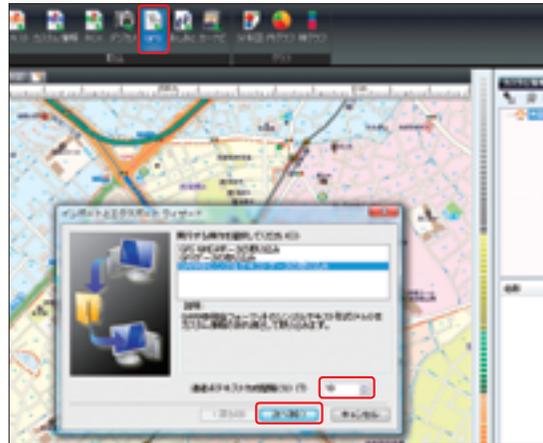


GPSログのデータが取り込まれ、GPSログのカスタム情報 (点線) として表示されます。データに経由点情報がある場合は、同時に経由点テキストが表示されます。

GPSログ-GARMINデータを取り込む

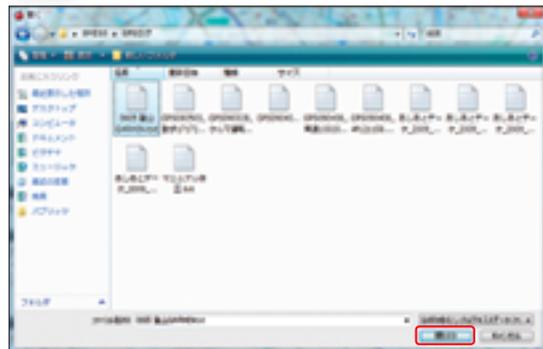
(* .txt) 形式のGARMINシンプルテキストデータをカスタム情報のGPSログとして取り込みます。

1 [取込]グループの[GPS]をクリックし、GARMINを選択する



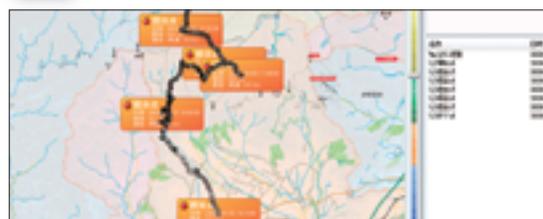
[取込] グループの [GPS] ボタンをクリックして、インポートとエクスポート ウィザード画面を表示させます。次に「GARMINシンプルテキストデータの取り込み」を選択し、「次へ」をクリックします。

2 目的のGPSログファイルを開く



パソコンに保存されている (* .txt) 形式のGARMINシンプルテキストデータファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 GPSログがカスタム情報に追加される



GPSログのデータが取り込まれ、GPSログのカスタム情報 (点線) と開始点・終了点、そして設定間隔ごとの経由点テキストが表示されます。

GPSデータから速度・高度グラフを表示する

読み込んだGPSログから開始地点～終了地点までの速度・高度グラフを表示できます。速度・高度グラフではルート

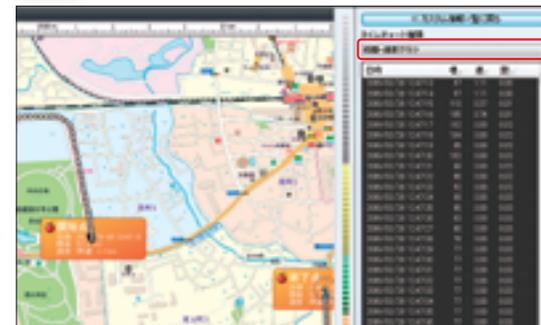
移動と連動した再生や、ポイントごとの高度や速度などを確認できます。

1 速度グラフ・高度グラフを表示する



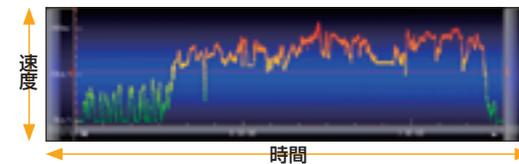
作業バーにあるGPS経路を選択し、右クリックメニューで「詳細を表示する」を選ぶか、ダブルクリックすることで自動的にGPS経路をグラフ表示します。

2 グラフの種類を選ぶ

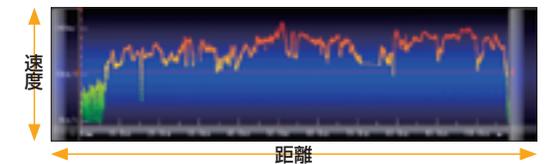


速度・高度グラフが表示されたら、作業バーにある [タイムチャート種類] からグラフの種類を選びます。4種類のグラフで、それぞれ縦軸と横軸が表すのは下記の内容になります。速度グラフの縦軸は速度を、横軸は時間または距離を表します。高度グラフの左縦軸は高度を表しますが、右縦軸はスタート地点からの高低差を表しています。

■時間-速度グラフ



■距離-速度グラフ



■時間-高度グラフ



■距離-高度グラフ

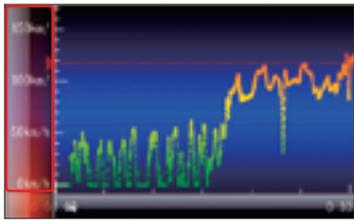


3 グラフの表示領域を拡大・縮小する



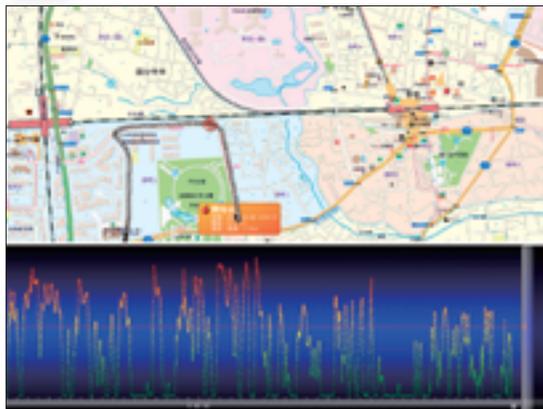
グラフは地図ウィンドウの下部に表示されるので、検索バー、作業バー部分を非表示、または狭くすることで相対的に大きくなります。またグラフの上部をドラッグすることで上下幅も変わります。

4 マーカーの高さを調節する



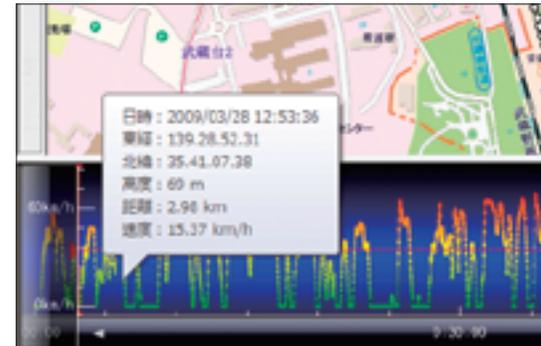
グラフ上には目安となる赤いマーカーが表示されています。マーカーは左右にある縦軸部分をドラッグすることで上下に移動できます。

5 グラフと連動してGPS経路を再生する



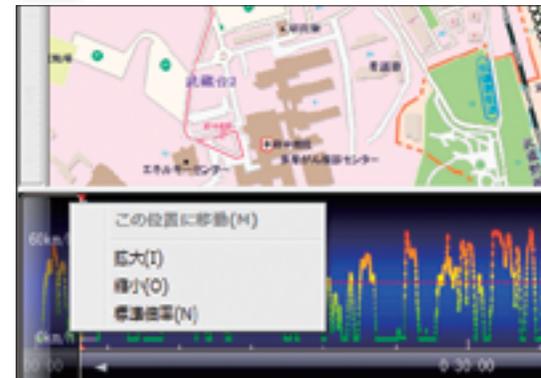
グラフの右下にある再生ボタンをクリックすることで経路が再生され、再生中にクリックすることで停止します。

6 グラフ線の情報を表示する



グラフ線上にマウスカーソルを重ねると、記録した日時、その地点での経度や緯度、高度、開始地点からの距離、速度などが表示されます。

7 グラフ表示を拡大・縮小する



グラフエリア内で右クリックメニューからグラフを[拡大][縮小]したり、[標準倍率]に戻すことができます。また右クリックメニューの[この位置に移動]を選ぶと、地図上のマーカーが指定した場所を表示します。グラフ上の線をダブルクリックすることでも同様の操作ができます。また、グラフの倍率変更はCtrl+マウスホイール回転でも同様の操作ができます。

8 グラフを進行・巻き戻しする



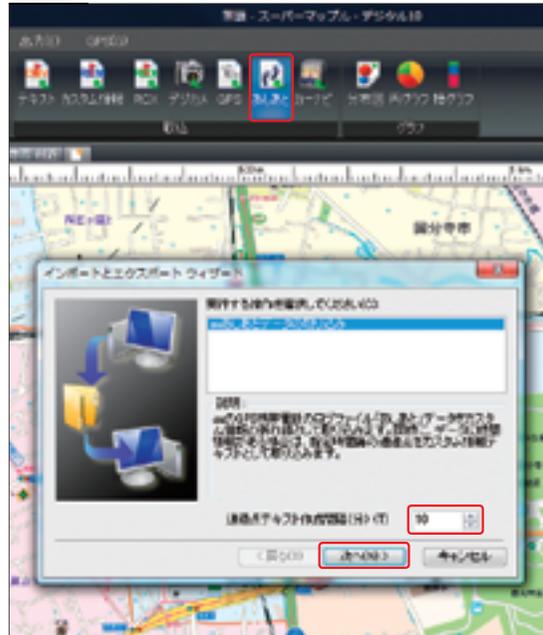
グラフ部分を左右にドラッグすることでグラフを移動できます。また、マウスホイールを回転させても同様の操作が可能です。

auあしあととデータを取り込む

auあしあととデータとは主にauの携帯電話の「地図ビューアー」で生成可能な、移動した軌跡のポイントデータ列を格納した(*.txt)形式のファイルのことです。スーパーマップル・デジタルでは、auあしあととデータをGPSログのカ

スタム情報として取り込むことができます。また、折れ線と合わせて、指定時間ごとの経由点（通過点を示すカスタム情報テキスト）も取り込めます。

1 [取込] グループの [あしあと] をクリックする



取り込みを開始するときは [取込] グループの [あしあと] ボタンをクリックします。インポートとエクスポートウィザード画面が表示されたら「auあしあととデータの取り込み」を選択し、通過点テキスト作成間隔（分）を設定してください。

通過点テキスト作成間隔（分）を設定すると、指定した間隔ごとに経由点のカスタム情報テキストが作成されます。設定に関するほかの注意点は以下のとおりです。

- ・通過点テキスト作成間隔（分）は、1分～60分の間で指定できます。
 - ・通過点を取り込まない場合は、0分を指定してください。
 - ・開始点と終了点は必ず作成されます。
- 設定が終了したら「次へ」をクリックします。



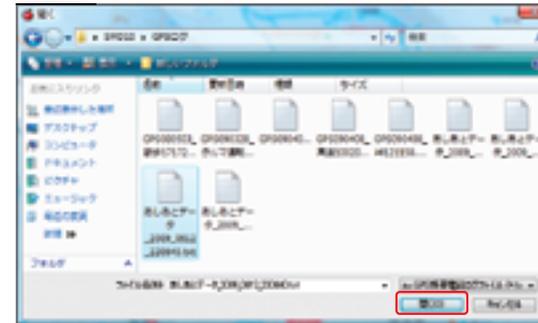
Point

携帯電話にあしあととデータを残すには？

アプリの「地図ビューアー」を起動後、「簡易ハンディGPS」を選択すると現在の測位が始まります。移動して位置情報を取得したら、「簡易ハンディGPS」→「アプリ設定」→「あ

しあと設定」→「あしあとの保存」を選択します。これで携帯電話のデータファイルにあしあととデータが保存されるので、メール添付やSDメモリーカードでパソコンに送りましょう。

2 目的のauあしあととデータファイルを開く



「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので、パソコンに保存されている (*.txt) 形式のauあしあととデータファイルを選択し、「開く」をクリックします。

3 auあしあととデータが地図上に表示される



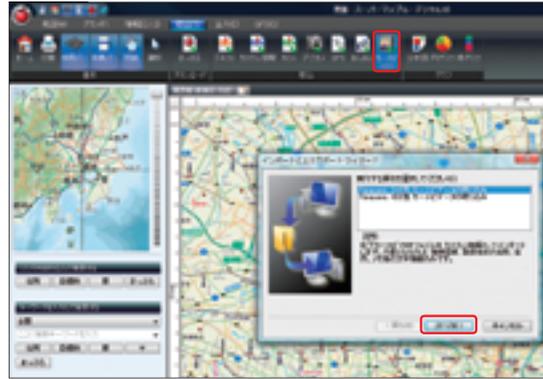
選択したauあしあととデータが取り込まれ、GPSログのカスタム情報（点線）と開始点・終了点・設定間隔ごとの経由点テキストが表示されます。

カーナビデータファイルを取り込む

スーパーマップル・デジタルではPanasonic製DVD型／HDD型カーナビ用のポイントデータを取り込むことができます。DVD型カーナビ用データは(*.pmf)、HDD型カー

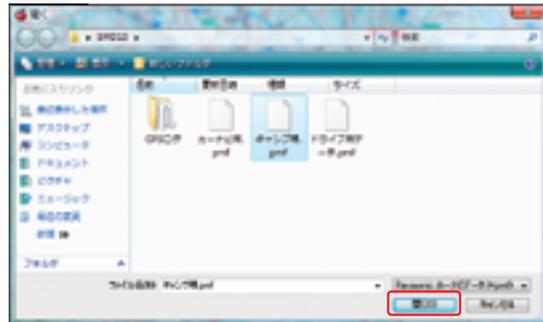
ナビ用データは(*.rcx)の形式に対応しています。なお、取り込み可能なデータは地点情報だけであり、地図データそのものやルートデータを取り込みはできません。

1 [取込]グループの[カーナビ]をクリックする



[取込]グループの[カーナビ]ボタンをクリックして、インポートとエクスポートウィザード画面を表示させます。次に取り込むカーナビデータのタイプをDVD型かHDD型から選択し、「次へ」をクリックします。

2 目的のカーナビデータを開く



SDカードなどを経由してパソコンに保存された(*.pmf)もしくは(*.rcx)形式のファイルを選択し、「開く」をクリックします。すると、カーナビデータがカスタム情報として地図に反映されます。

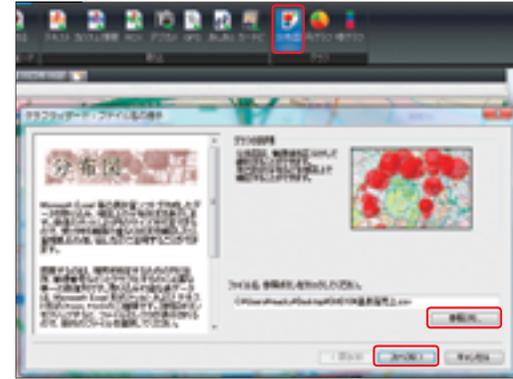


各種データを取り込んで分布図を作成する

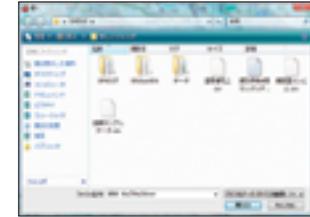
Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上にポイントバブルで分布図を表示します。数値の大小によって円のサイズを可変できるので、どの地域に影響

を与えるのかを確認できます。また、ポイントバブルは透明度が変更できるので、対象の施設などのエリアを確認できます。

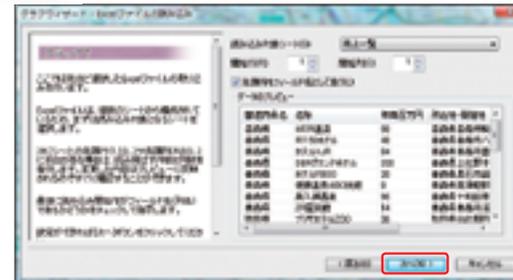
1 [グラフ]グループの[分布図]をクリックする



[グラフ]グループの[分布図]ボタンをクリックして、グラフウィザード画面が表示されたら、[参照]をクリックして、パソコンに保存されている目的のファイルを選択します。ファイルを選択したら、グラフウィザード画面で[次へ]をクリックします。

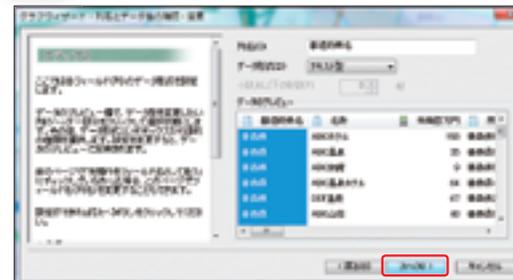


2 Excelファイルの読み込み



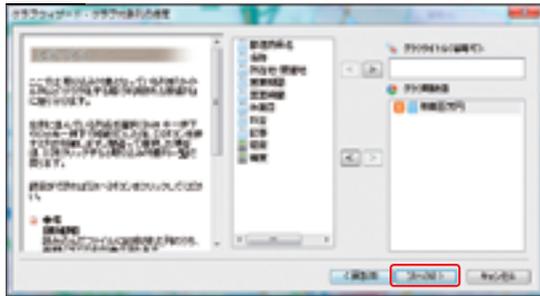
ファイルを読み込み、先頭行にフィールド名が入っている場合は[先頭行をフィールド名として扱う]にチェックを入れておきます。フィールド名は以降の操作で、その列をグラフのどの部分に割り当てるかを設定する名称です。csvファイルやテキストファイルを読み込む場合には、区切り文字や引用符の文字列などを決定します。読み込みの設定を決定したら、[次へ]をクリックします。

3 列名とデータ型の確認



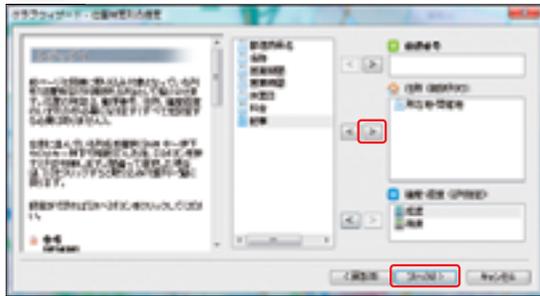
列名とデータ形式を決定します。データのプレビューをクリックして、それぞれの列の名称とデータ形式を設定します。グラフの数値として使う部分は数値型にしておきます。設定できたら[次へ]をクリックします。

4 分布図に利用する列を決定する



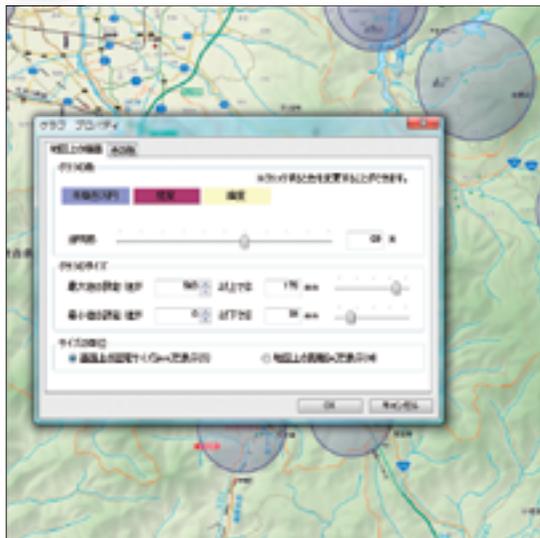
フィールド名一覧から分布図に利用する列を選択します。列を選んだらボタンで [グラフタイトル] や [グラフ用数値] に追加します。グラフタイトルは省略しても構いません。設定できたら [次へ] をクリックします。

5 位置決定に使用する項目を選ぶ



フィールド名一覧から位置情報特定に使用する列を選択します。列を選んだらボタンで [郵便番号]、[住所]、[緯度・経度] に追加します。すべてを入れる必要はなく、どれかひとつでも使用する列が選択されていれば、そのデータから位置が特定されます。[次へ] をクリックすると、グラフデータの検証がスタートし、場所や数値を判断できないデータ部分が表示されます。検証完了後、[次へ] をクリックすると分布図が地図上に表示されます。

6 分布図の大きさや色を変更する



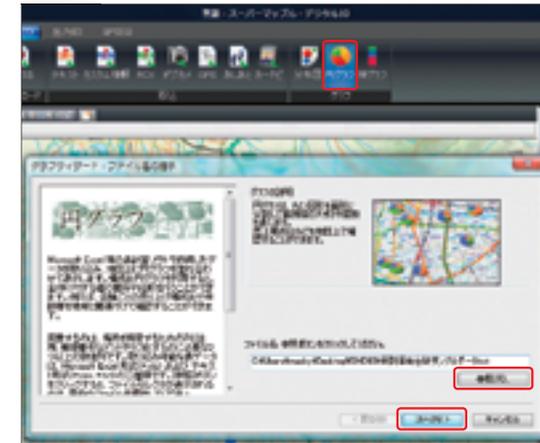
分布図のグラフプロパティが自動的に表示されます。[グラフの色] にある色部分ををクリックするとカラーパレットが表示され、色の変更ができます。[透明度] はスライダーで変更できるほか、数値入力でも変更可能です。[グラフのサイズ] は数字の最大値に対応する大きさ、最小値に対応する大きさを指定できます。分布図設置後、グラフのプロパティは作業バーにある [プロパティ] から開くことができます。分布図表示をしない場合は作業バーの [カスタム情報一覧に戻る] をクリックすれば非表示になります。再度、表示する場合は、作業バー内でグラフデータ名の付いたカスタム情報の右クリックメニューから [詳細を表示する] を選ぶか、ダブルクリックすることで分布図を表示できます。

各種データを取り込んで円グラフを作成する

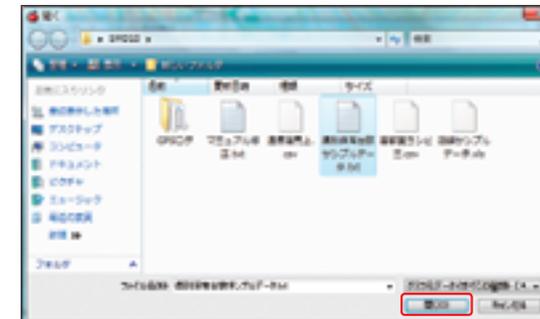
Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上に円グラフを表示します。分析対象となる複数のデータを円グラフにすることで、品物の売り上げ比率や年

齢層といったさまざまな構成比率を地域と関連付けて確認できます。

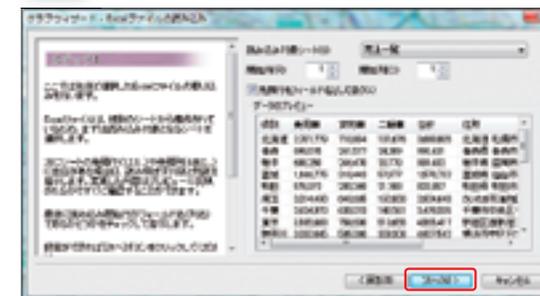
1 [グラフ]グループの [円グラフ] をクリックする



[グラフ] グループの [円グラフ] ボタンをクリックして、グラフウィザード画面が表示されたら、[参照] をクリックして、パソコンに保存されている目的のファイルを選択します。ファイルを選択したら、グラフウィザード画面で [次へ] をクリックします。

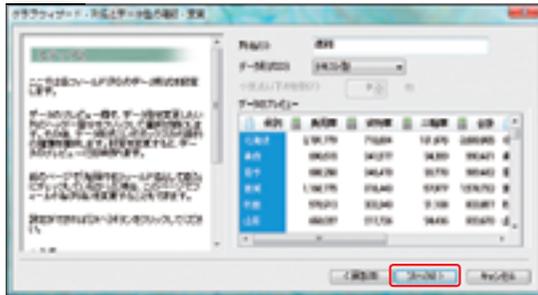


2 Excelファイルの読み込み



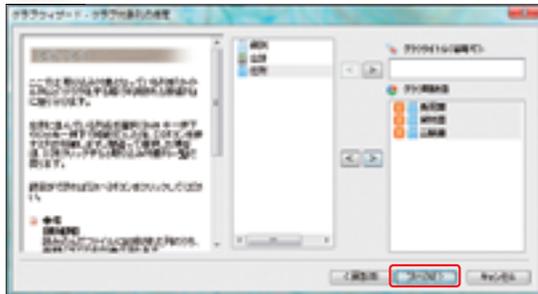
csvファイルやテキストファイルを読み込む場合には区切り文字や引用符の文字列などを決定します。読み込みの設定を決定したら、[次へ] をクリックします。先頭行にフィールド名が入っている場合は [先頭行をフィールド名として扱う] にチェックを入れておきます。

3 列名とデータ型の確認



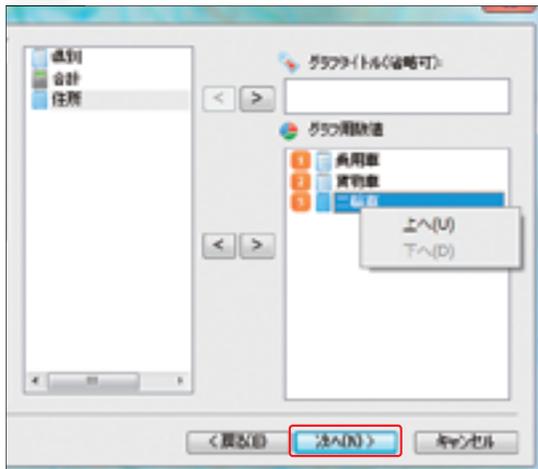
列名とデータ形式を決定します。データのプレビューをクリックして、それぞれの列の名称とデータ形式を設定します。設定できたら [次へ] をクリックします。

4 円グラフに利用する列を決定する



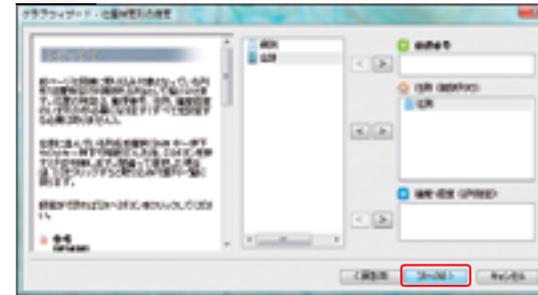
フィールド名一覧から円グラフに利用する列を選択します。列を選んだらボタン [] で [グラフタイトル] や [グラフ用数値] に追加します。グラフタイトルは省略しても構いません。円グラフは構成比率を表示するため、[グラフ用数値] には2つ以上のフィールドを選択してください。

5 データの順番を入れ替える



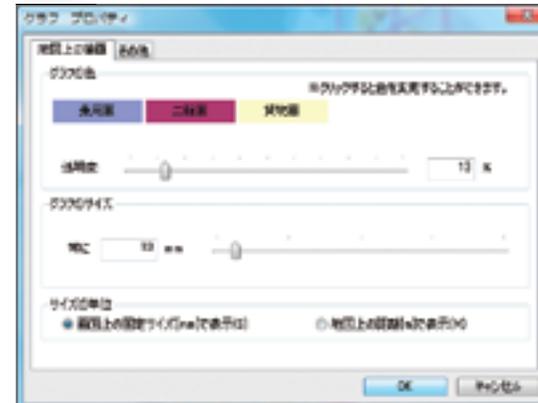
[グラフ用数値] ボックスにあるフィールド名を選択した状態で、右クリックメニューを開くと、フィールドの優先順位を入れ替えられます。順番を設定したら [次へ] をクリックします。

6 位置決定に使用する項目を選ぶ

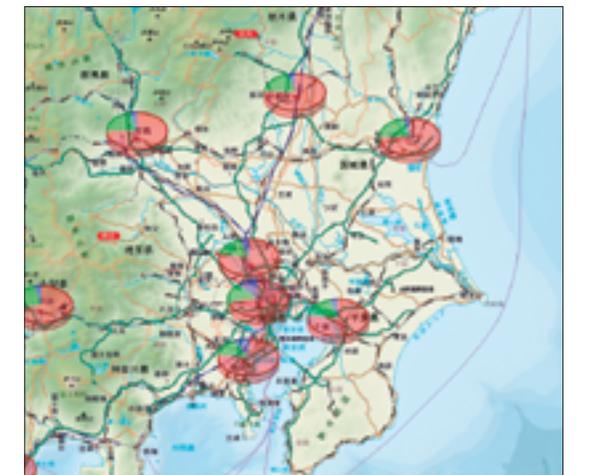
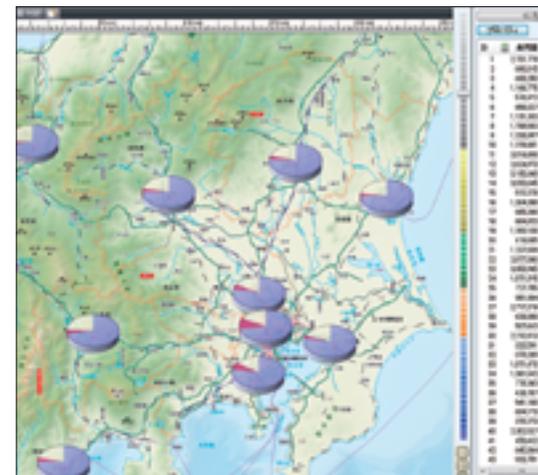


フィールド名一覧から位置情報特定に使用する列を選択します。列を選んだらボタン [] で [郵便番号]、[住所]、[緯度・経度] に追加します。すべてを入れる必要はなく、どれかひとつでも使用する列が選択されていれば、そのデータから位置が特定されます。[次へ] をクリックすると、グラフデータの検証がスタートし、場所や数値を判断できないデータ部分が表示されます。検証完了後、[次へ] をクリックすると円グラフが地図上に表示されます。

7 円グラフの大きさや色を変更する



円グラフのグラフプロパティが自動的に表示されます。色部分をクリックすることで [グラフの色] を変更できます。[透明度] [グラフのサイズ] はスライドバーまたは、数値入力で変更可能です。円グラフを設置したあとから各設定を変更したい場合は、作業バーにある [プロパティ] から行なうことができます。グラフ表示をしない場合は作業バーの [カスタム情報一覧に戻る] をクリックすれば非表示になります。表示する場合は、作業バー内でカスタム情報の右クリックメニューから [詳細を表示する] を選ぶか、ダブルクリックすることで再度表示できます。

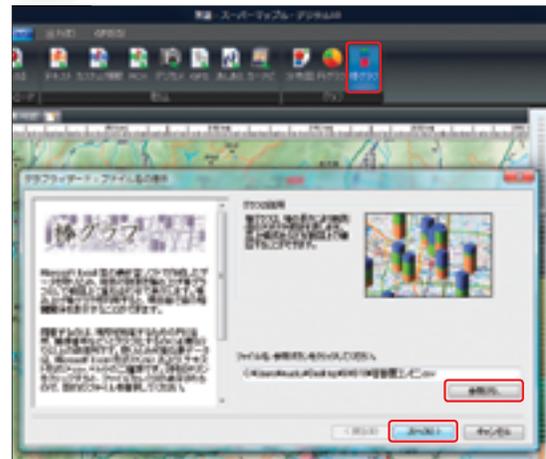


大きさや透明度、グラフの色を変更することで、見やすさが大きく変わってきます。グラフによって地名が隠れてしまう場合には透明度を上げてみましょう。

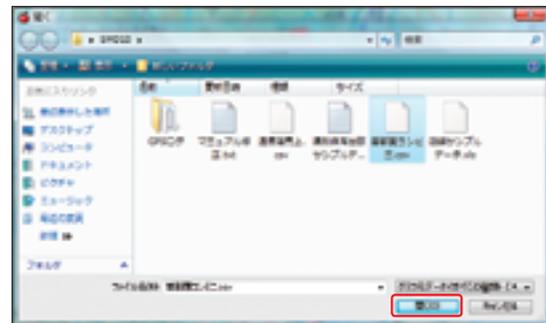
各種データを取り込んで棒グラフを作成する

Excelなどの表計算ソフトで作成したデータを取り込み、地図上に棒グラフを表示します。棒グラフにすることで、品物の売り上げ比率や年齢層といった構成比率のほか、売り上げ規模も同時に確認できます。

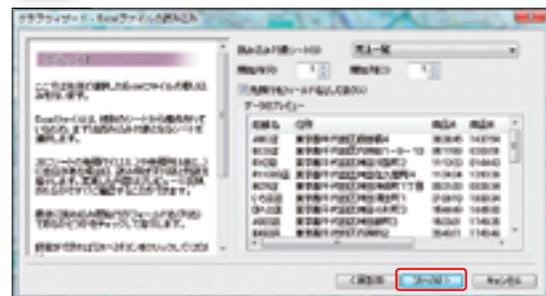
1 [グラフ]グループの[棒グラフ]をクリックする



[グラフ] グループの [棒グラフ] ボタンをクリックして、グラフウィザード画面が表示されたら、[参照] をクリックして、パソコンに保存されている目的のファイルを選択します。ファイルを選択したら、グラフウィザード画面で [次へ] をクリックします。

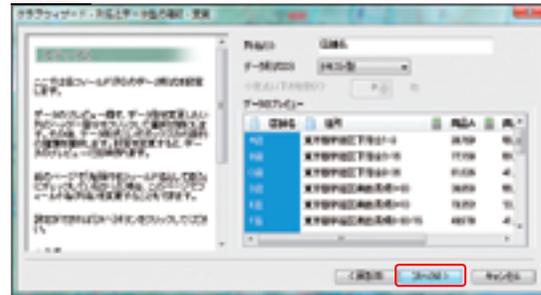


2 Excelファイルの読み込み



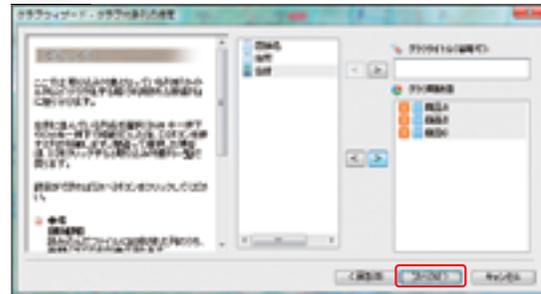
csvファイルやテキストファイルを読み込む場合には区切り文字や引用符の文字列などを決定します。読み込みの設定を決定したら、[次へ] をクリックします。先頭行にフィールド名が入っている場合は [先頭行をフィールド名として扱う] にチェックを入れておきます。

3 列名とデータ型の確認



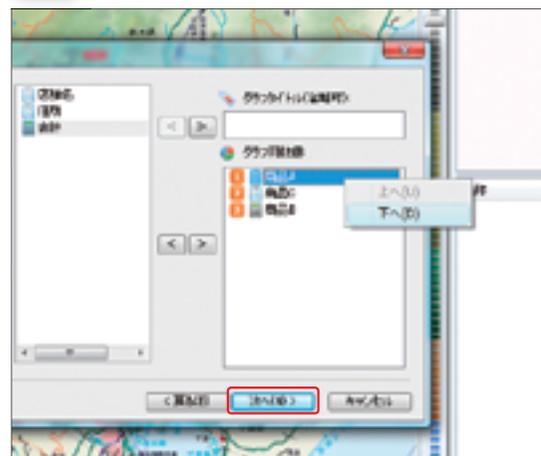
列名とデータ形式を決定します。データのプレビューをクリックして、それぞれの列の名称とデータ形式を設定します。設定できたら [次へ] をクリックします。

4 棒グラフに利用する列を決定する



フィールド名一覧から棒グラフに利用する列を選択します。列を選んだらボタン [] で [グラフタイトル] や [グラフ用数値] に追加します。グラフタイトルは省略しても構いません。棒グラフは構成比率を表示するため、[グラフ用数値] には2つ以上のフィールドを選択してください。

5 データの順番を入れ替える

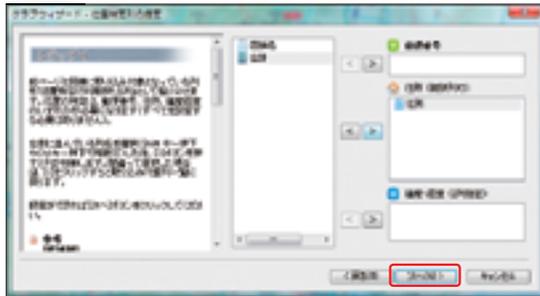


[グラフ用数値] ボックスにあるフィールド名を選択した状態で、右クリックメニューを開くと、フィールドの優先順位を入れ替えられます。順番を設定したら [次へ] をクリックします。

データの取り込みと出力

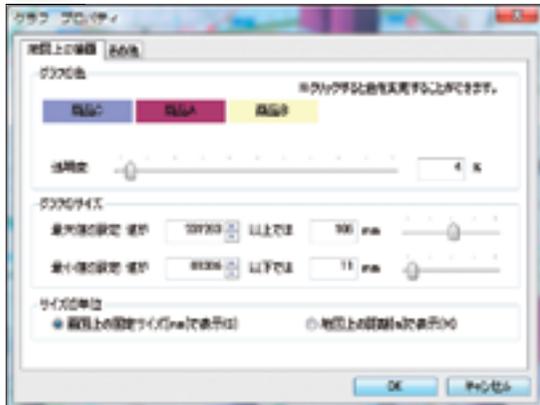
データの取り込みと出力

6 位置決定に使用する項目を選ぶ

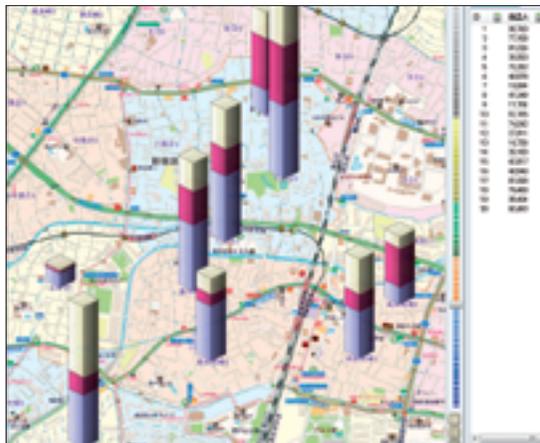


フィールド名一覧から位置情報特定に使用する列を選択します。列を選んだらボタンで[郵便番号]、[住所]、[緯度・経度]に追加します。すべてを入れる必要はなく、どれかひとつでも使用する列が選択されていれば、そのデータから位置が特定されます。[次へ]をクリックすると、グラフデータの検証がスタートし、場所や数値を判断できないデータ部分が表示されます。検証完了後、[次へ]をクリックすると棒グラフが地図上に表示されます。

7 棒グラフの大きさや色を変更する



棒グラフのグラフプロパティが自動的に表示されます。色部分をクリックすることで[グラフの色]を変更できます。[透明度]はスライダーまたは、数値入力で変更可能です。[グラフのサイズ]は数字の最大値に対応する大きさ、最小値に対応する大きさを指定できます。棒グラフを設置したあとから各設定を変更したい場合は、作業バーにある[プロパティ]から行なうことができます。グラフ表示をしない場合は作業バーの[カスタム情報一覧に戻る]をクリックすれば非表示になります。表示する場合は、作業バー内でカスタム情報の右クリックメニューから[詳細を表示する]を選ぶか、ダブルクリックすることで再度表示できます。



Point

グラフの最大値・最小値の設定方法について

棒グラフのサイズは数値列の大小に比例して大きさが変化します。最大値に対応するサイズを大きく設定すればグラフのサイズが大きくなります。最小値に対応するサイズを小さくすると個々のグラフサイズ差が大きく、最大値に近い設定にすればサイズの差が小さくなります。

4-3

作成した情報の出力



作成した情報は、簡単な手順でパソコンや携帯電話、Pocket Mapple Digital (P.164を参照)に持ち出すことができます。他のアプリケーションで情報を使いたい場合に出力機能を利用

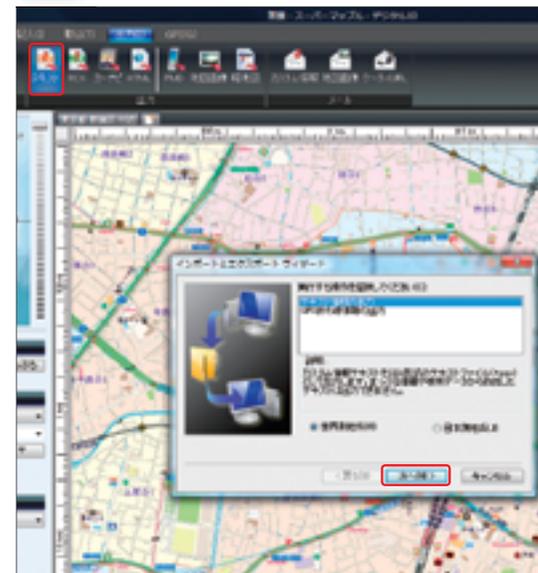
していきましょう。出力可能な情報は、テキストファイル、HTMLファイル、地図画像などが用意されています。なお、各種情報の出力はリボンの[出力]タブから実行します。

テキストファイルを出力する

スーパーマッブル・デジタルで作成したカスタム情報やGPS折れ線情報を、(*.txt)や(*.csv)形式のテキストファイルとして出力できます。Excelなど他のアプリケーションで利用できるため、住所録の作成などに利用すると便利

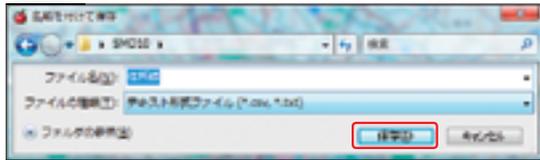
です。また、画像が付随したカスタム情報テキストは、テキストファイルと一緒に位置情報付きの画像ファイルも出力されます。

1 [出力]グループの[テキスト]をクリックする

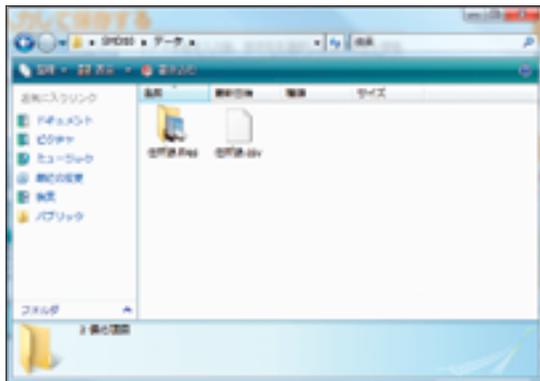


テキストファイルの出力を開始するときは、[出力]グループの[テキスト]ボタンをクリックします。インポートとエクスポートウィザード画面が表示されたら、「テキスト情報の出力」か「GPS折れ線情報の出力」(P.150を参照)を選択します。次に測地系を世界測地系と日本測地系から選択して「次へ」をクリックします。

2 ファイル名を入力して保存する



ファイル名を入力後、保存先を選択したらテキスト情報、GPS折れ線情報のいずれの場合も (*.csv,*.txt) 形式のファイルとしてパソコンに保存されます。



画像ファイルが存在した場合、エクスポートするファイルと同一フォルダ内に「(出力するファイル名).files」というフォルダが自動的に作成され、その中に画像ファイルが出力されます。

Point
テキストファイルに出力できる項目

カスタム情報の一部の項目は、テキストファイルに出力できません。出力できるのは「住所」、「緯度・経度」、「名称」、「フリガナ」、「郵便番号」、「TEL」、「E-Mail」、「アイコンID」、「フォルダ」、「コメント」、「画像」、「オブジェクト」、「Web

ページリンク」の各項目です。また、検索結果から作成したカスタム情報や、まっぷるダウンロードページから取得したカスタム情報はテキスト出力できません。

Point
GPS折れ線情報の出力とは？

GPS折れ線情報の出力機能を利用すると、スーパーマップル・デジタルでGPS計測時にカスタム情報化したGPSデータを、カンマ区切りのテキストファイルとして出力できます。出力される情報は緯度・経度のみです。出力したGPSテキ

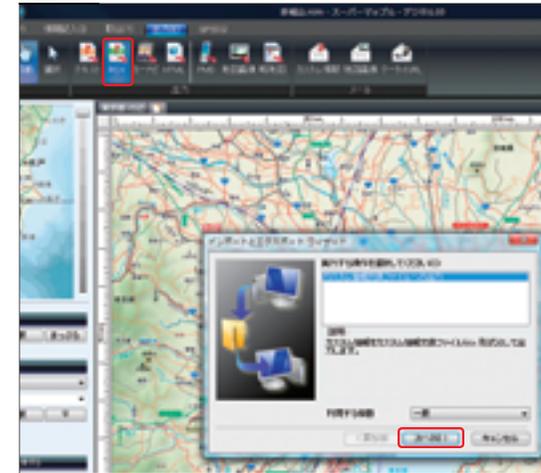
スト情報ファイルは、スーパーマップル・デジタルで折れ線として取り込めるほか、他のアプリケーションで利用することも可能です。折れ線情報のテキストファイルの取り込みについてはP.120を参照してください。

カスタム情報交換ファイルを出力する

カスタム情報をカスタム情報交換ファイルとして保存すると、Pocket Mapple Digitalなどの外部機器と、パスワード付きでカスタム情報のやり取りを行なうことができます。なお、カスタム情報交換ファイルはテキスト形式とは

異なり、(*.rcx) 形式となります。パスワードを付ける必要がない場合は、カスタム情報ファイル (*.rcm) として保存しましょう。

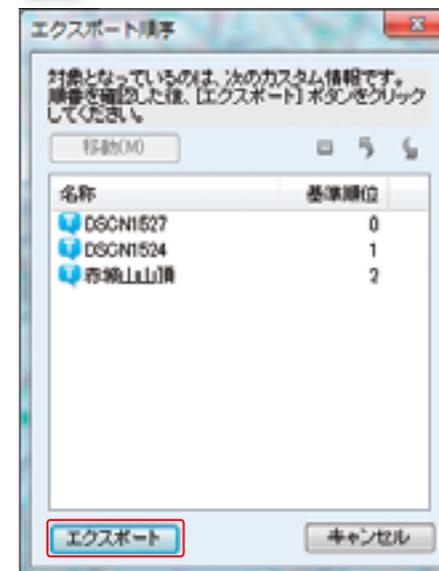
1 [出力] グループの [RCX] をクリックする



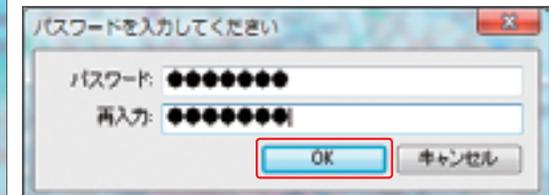
カスタム情報交換ファイルとして出力するときは、[出力]グループの [RCX] ボタンをクリックして、インポートとエクスポート ウィザード画面を表示させます。「カスタム情報交換ファイルへの出力」を選択したら「次へ」をクリックします。

Point
プランニング結果からでも可能
カスタム情報交換ファイルとしての出力は、プラン実行後のプランニング結果表示中に [出力] グループの [RCX] ボタンからでも行なうことができます。

2 パスワードと出力順序を設定する



カスタム情報交換ファイルは、任意でパスワードを設定することもできます。パスワード設定後は出力順序の変更と出力対象を設定し、ファイル名を入力してパソコンに保存しましょう。

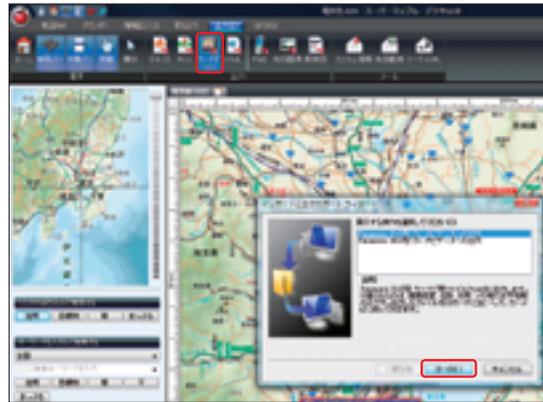


カーナビデータファイルを出力する

スーパーマップル・デジタルに記入したカスタム情報をポイントデータに変換し、Panasonic製DVD型/HDD型のカーナビ用ファイル（対応モデルはP.153参照）としてパソコンに保存できます。保存したファイルをSDカー

ドにコピーしてカーナビへ持ち込むことで、カーナビ側で再度目的地を検索する必要がなくなります。なお、出力対象となる情報は緯度・経度、名称、住所、メモなどの文字情報です。

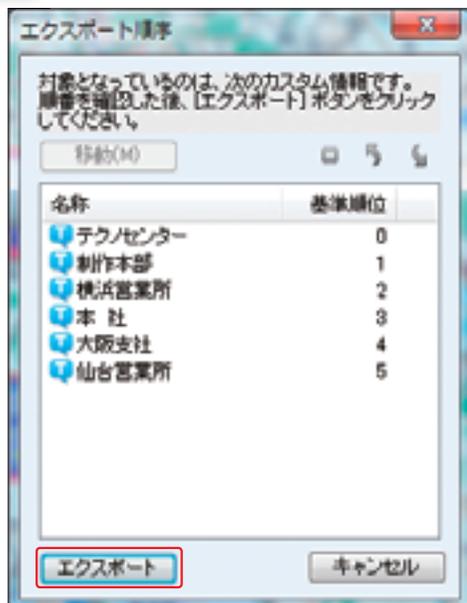
1 [出力グループ]の[カーナビ]をクリックする



カーナビデータを出力するときは、[出力]グループの[カーナビ] ボタンをクリックして、インポートとエクスポートウィザード画面を表示させます。そして、利用先のカーナビのタイプをDVD型とHDD型から選択します。タイプにより出力時のファイル形式が異なるので、事前によく確認しておきましょう。

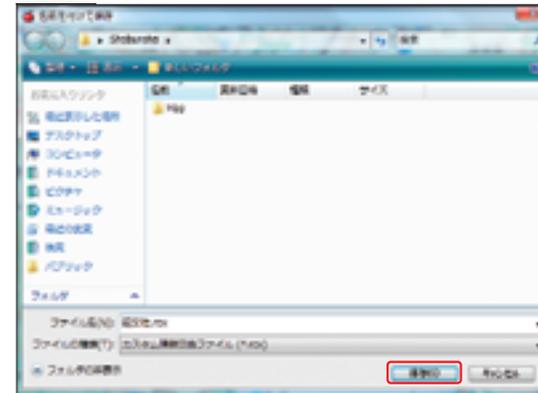
特に、一部のHDDカーナビでもDVD型を選択する必要があります。詳しくはP.153の「対応カーナビモデル」を参照してください。

2 カスタム情報の出力順序を設定する



HDD型用のデータを出力するときは、カスタム情報の出力順序を設定することができます。エクスポート順序設定画面が表示されたら、必要に応じて順序の設定を行ないましょう。ここでは上下の矢印アイコン を使用し、選択したカスタム情報の出力順序を移動させることができます。また、選択したカスタム情報を出力の対象から削除するときは を使用します。

3 ファイルをパソコンに保存する



カーナビデータファイルは、DVD型用のファイル (*.pmf) 形式、またはHDD型用のファイル (*.rcx) 形式で出力されます。形式を確認後、ファイル名を入力してパソコンに保存しましょう。

対応カーナビモデル

対応するカーナビの種類については、クイックアクセスバー→[サポート]からサポートページを起動することも確認できます。

■HDD型用ファイル対応

CN-HDS965/960/955/950/945/940/935/930/915/910/905/900シリーズ
CN-HS400シリーズ
CN-HDX730/300シリーズ
CN-HD9000シリーズ

■DVD型用ファイル対応

CN-HX1000/HW1000シリーズ
CN-HDS710/700/635/630/625/620シリーズ
CN-DV255/155/250/150シリーズ
CN-DS120/110/100シリーズ
CN-DV7700/3000/2000シリーズ

※2009年6月現在



Point

HDD型用ファイル対応のカーナビ

HDD型用ファイル対応機種は、HDD型用ファイル (*.rcx) とDVD型用ファイル (*.pmf) のどちらでも利用できます。



Point

カーナビデータファイル出力時の注意点

地図データそのものやルートデータについては、カーナビデータとして取り込むことはできません。また、Panasonic製DVD型カーナビ用データを出力する場合、検索結果から作

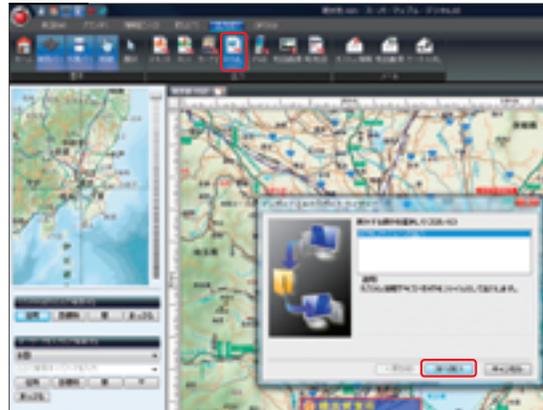
成したカスタム情報や、まっぷる検索、まっぷるダウンロードサービスから取得したカスタム情報は出力できませんのでご注意ください。

HTMLファイルを出力する

カスタム情報テキストおよび地図画像、もしくはカスタム情報テキストの一覧をHTMLファイルとして出力することができます。HTMLファイルとして出力すると、Webブラウザなどで地図の閲覧が可能になります。ただし、個

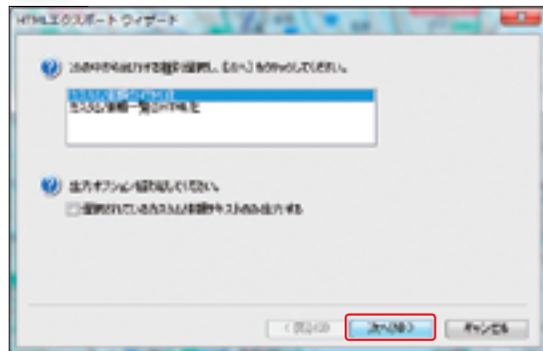
人かつ非営利目的の利用以外は、地図画像を利用するにあたっての許諾が必要になりますのでご注意ください。なお、HTMLファイルに出力される地図は通常の印刷とイメージが多少異なります。

1 [出力] グループの [HTML] をクリックする



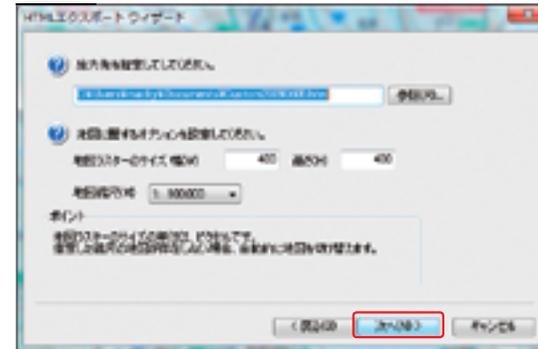
カスタム情報テキストをHTMLファイルとして保存するときは、まず [出力] グループの [HTML] ボタンをクリックします。地図画像を使用するにあたっての [利用許諾] 画面が表示されるので (P.156参照)、使用目的を選びます。個人で使用する場合には [個人で利用します] をクリックし、インポートとエクスポート ウィザード画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

2 保存対象の種別とオプションを設定する



HTMLエクスポート ウィザードでは出力対象の種別を選択します。「カスタム情報のHTML化」を選択した場合、カスタム情報と地図画像が出力対象になります。「カスタム情報一覧のHTML化」を選択した場合、地図ではなくカスタム情報テキストの一覧が出力対象になります。また、オプションで「選択されているカスタム情報テキストのみ出力する」にチェックを入れると、選択したカスタム情報のみが出力対象になります。

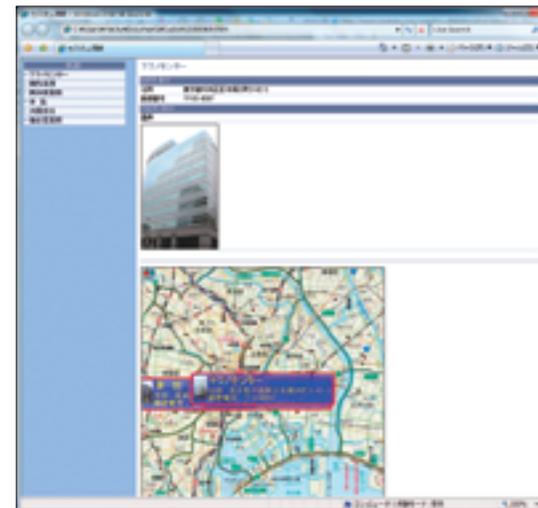
3 出力先と地図オプションを設定する



「カスタム情報のHTML化」を選択した場合、ファイルの出力先を選択後、「地図ラスタのサイズ」で地図の幅と高さをピクセル (ドット) 数で指定します。サイズは最大640×640ピクセルになります。次に「地図縮尺」で地図の縮尺を選択したら設定完了です。「次へ」をクリックし、確認画面で「完了」をクリックして出力を実行しましょう。なお、STEP2で「カスタム情報一覧のHTML化」を選択した場合は「地図ラスタのサイズ」と「地図縮尺」の設定はありません。

4 プレビューを確認する

■カスタム情報のHTML化



出力が完了したら、HTMLファイルのプレビュー表示を行なうかの確認が表示されます。どちらを選択しても出力状態には影響しませんが、いち早くプレビューでファイルの内容を確認しておきましょう。また、ファイルの画面左にあるリストで各項目をクリックすると、カスタム情報プレビューが地図画像と合わせて表示されます。

■カスタム情報一覧のHTML化



出力対象の種別で「カスタム情報一覧のHTML化」を選択している場合、地図画像は出力されません。

地図画像ファイルを出力する

地図の画像ファイル出力機能を利用すると、地図を（*.bmp）、（*.jpg）、（*.png）、（*.gif）形式の画像ファイルとしてパソコンに出力できます。地図画像ファイルは画像ビューワーソフトで閲覧できるほか、Microsoft Wordな

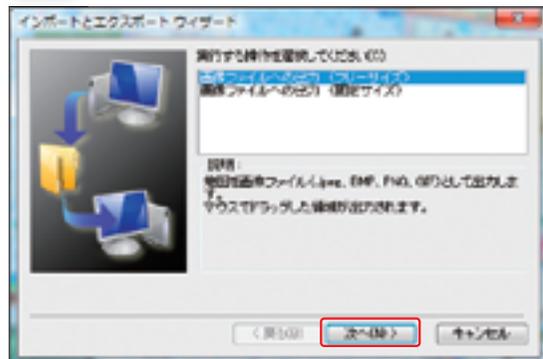
ど他のアプリケーションに貼り付けて利用できます。なお、地図画像ファイルに表示される昭文社の著作権表示を削除しての利用は認められておりません。

1 [出力] グループの [地図画像] をクリックする



[出力] グループの [地図画像] ボタンをクリックすると、[利用許諾] 画面が表示されます。個人で使用する場合は [個人で利用します] をクリックして、インポートとエクスポートウィザードを表示します。
[利用許諾] 画面を表示したくない場合は [今後、このメッセージを表示しない] をチェックしておきましょう。
商業利用する場合は [商業利用に関して問い合わせます] をクリックすると、Webブラウザが起動し、[スーパーマップル・デジタル お問い合わせフォーム] ページが開きますので、地図画像の許諾に関してお問い合わせください。昭文社から得た地図使用許諾番号がある場合は、ボックスに該当の番号を入力します。

2 地図の切り出し方法を選択する



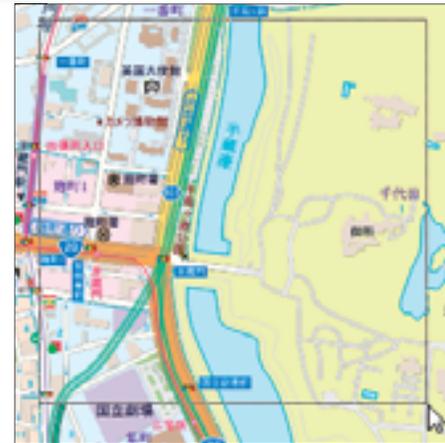
切り出し操作には、マウスでドラッグした領域を切り出す「フリーサイズ」と、クリックした点を中心に設定した「固定サイズ」があります。目的に合った方法を選択しましょう。
「固定サイズ」を選択した場合には、ここで幅と高さの設定が必要になります。設定可能な幅と高さの最大値は幅1280、高さ1280です。

Point 画像ファイルの印刷について

画像ファイルの印刷では、パソコン上で表示されるそのままの情報が印刷されます。そのため、専用のプログラムを利

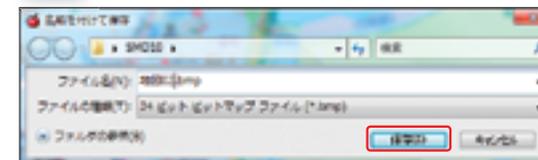
用して高精度な印刷を行なうスーパーマップル・デジタルの地図印刷に比べて精度が劣ることになります。

3 地図を切り出す



「フリーサイズ」を選んだ場合はマウスで切り出す領域をドラッグします。「固定サイズ」を選択した場合はクリックした場所を中心にSTEP2で設定した高さや幅の領域が地図画像として切り出されます。

4 地図を保存する



保存画面が開くので、ファイル名と保存先、ファイルの種類を設定して保存を完了しましょう。

保存可能なファイル形式は以下の4種類です。

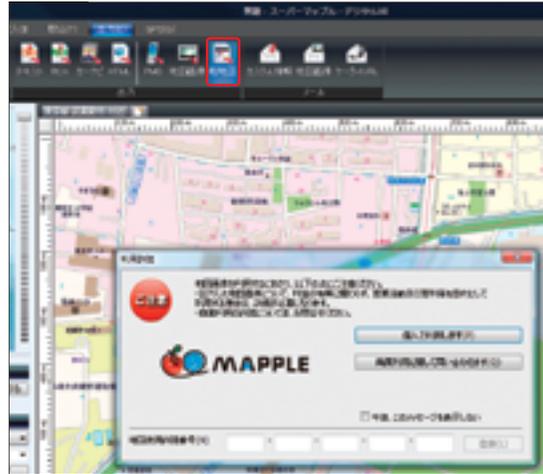
- ・ビットマップ形式 (*.bmp)
- ・JPEG形式 (*.jpg)
- ・PNG形式 (*.png)
- ・GIF形式 (*.gif)

略地図を作成・出力する

略地図とは、目的地までのルートを実線に表示し、途中の目印となる施設と通過する道だけを強調した簡略な地図画像です。出発地から目的地までの交差点や沿道の情報

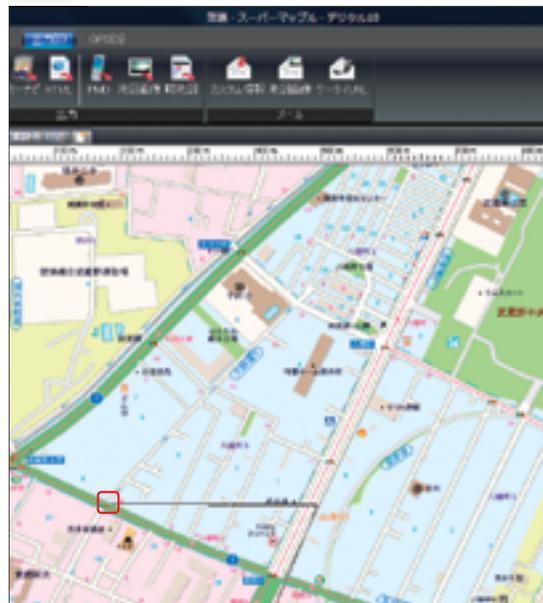
だけを入れた地図を作ることができ、案内図としての利用などに適しています。

1 [略地図] をクリックして始点をクリックする



【出力】グループの【略地図】ボタンをクリックすると、地図画像を利用するにあたっての【利用許諾】画面が表示されます（P.156参照）。利用目的を選択すると略地図生成が開始されるので、ルートの始点となる場所をクリックしましょう。

2 中継点をクリックする



始点が決まったら、次はルートの中継点となる場所にマウスポインタを移動させてクリックします。中継点は複数指定でき、省略することもできます。



Point

画面外までルートを引きたい場合

略地図を作成中、キーボードの [↑↓←→] キーを押すと画面を移動させることができます。ただし、もっとも長距離の略地図を作成する場合は、事前に縮尺を下げておくときれいに作成できます。

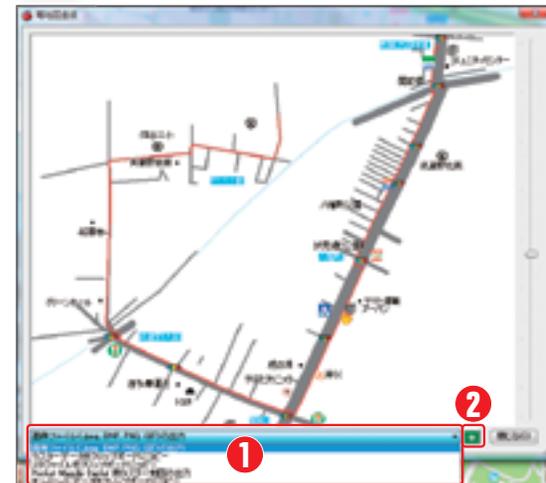
3 終点をダブルクリックする



中継点の指定を終えたら、終点となる場所にマウスポインタを移動させてダブルクリックします。これでルートの作成は完了し、略地図生成画面が表示されます。略地図生成画面の右側にあるスライダーバーを上下させると、縮尺を変更することができます。設定した縮尺に合わせて、画面の大きさも調整しましょう。

スライダーバー

4 略地図をコピーまたは出力する



略地図生成画面では略地図の内容を確認後、プルダウンメニューから出力形式またはクリップボードへのコピーのスタイル（下のPointを参照）を選択して、右側にある矢印アイコンをクリックします。出力を選択した場合は保存画面が表示されるので、ファイル名と保存先を設定します。クリップボードにコピーした場合は、他のアプリケーションを起動させて、そのまま右クリックメニューなどで貼り付けることができます。



Point

コピーの活用方法を知ろう

略地図にはクリップボードへのコピースタイルが3種類用意されており、用途に応じて選択します。「ラスターデータをクリップボードにコピー」では、ペイントツールやMicrosoftのOffice製品（WordやExcelなど）に貼り付けて利用します。

「メタファイルをクリップボードにコピー」では、メタデータに対応するアプリケーションで利用できます。「まっぷっぶデータをクリップボードにコピー」では、地図作成グラフィックソフト「まっぷっぶ」で使用できる形式の情報を出力しますので、そのまま貼り付けを行ってください。

4-4

作成した情報のメール送信



スーパーマッブル・デジタルでは、ファイルを添付する形で電子メールに情報を出力することができます。この機能を利用すれば、「メール作成時にパソコン上のファイルを探し出して添付す

る」といった手間が不要になります。カスタム情報ファイルと地図画像ファイルがメール送信に対応しており、リボンの【出力】タブをクリックして操作を開始します。

カスタム情報を電子メールで送信する

記入した情報をカスタム情報ファイルとしてパソコンに保存 (P.89を参照) できるほか、カスタム情報ファイルを電子メールに直接添付して他のユーザーに送ることができます。外出先からあるいは外出先へ情報を送るなど、スー

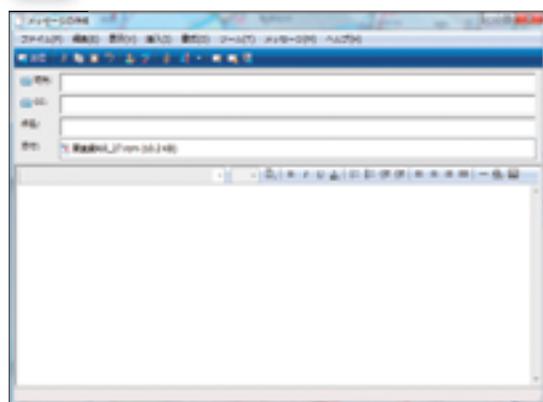
パーマッブル・デジタルやPocket Mapple Digitalのユーザー間で効率よく情報の受け渡しを行なうために、欠かせない機能といえます。

1 【メール】グループの【カスタム情報】をクリックする



カスタム情報を記入するか、既存のカスタム情報ファイルを開き、メールで送信したいカスタム情報を表示します。次に、【メール】グループにある【カスタム情報】ボタンをクリックします。

2 電子メールを作成して送信する



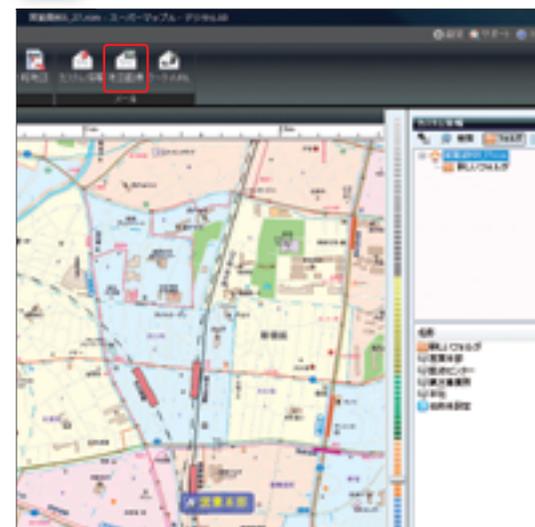
パソコンにインストールされている、「Microsoft Outlook」などの電子メールソフトウェアが自動的に起動し、電子メール作成画面が表示されます。すでにカスタム情報ファイルが添付された状態なので、宛先や本文などを設定して送信しましょう。なお、ファイルを開くには、受信側にもスーパーマッブル・デジタルが必要になります。

地図画像ファイルを電子メールで送信する

地図は画像ファイルとしてパソコンへ出力 (P.156を参照) できるだけでなく、電子メールに直接添付して他のユーザーに送信することもできます。カスタム情報ファイルの電子メール送信と同じく、情報の素早い伝達に一役買ってくれる頼もしい機能です。地図のドラッグにより範囲を選

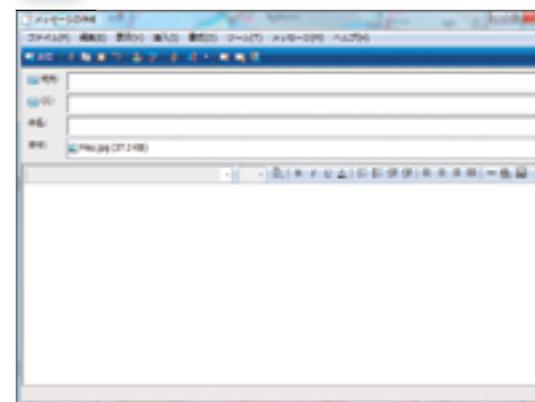
択すると、自動的に地図を添付した形でメール作成画面が表示されるのが特徴です。スーパーマッブル・デジタルユーザー以外の人に対しては、こちらの送信手段を利用しましょう。

1 【メール】グループの【地図画像】をクリックする



【メール】グループにある【地図画像】ボタンをクリックすると、地図を切り出せるようになります。マウスをドラッグさせて、四角い枠を確認しながら切り出す範囲を選択しましょう。ただし、地図画像の使用に際しては利用目的に応じて許諾が必要になりますのでご注意ください (P.156参照)。

2 電子メールを作成して送信する



地図の切り出す範囲を確定したら、パソコンにインストールされている「Microsoft Outlook」などの電子メールソフトウェアが自動的に起動します。また、同時に電子メール作成画面が表示され、切り出した地図が (*.jpg) 形式の画像ファイルとして添付されます。宛先や本文などを設定して送信しましょう。

地図URLを携帯電話に送る

地図データを画像として送るだけでなく、「携帯電話で閲覧可能なWebサイトのURL」付きのメールを作成することが可能です。知り合いや自分の携帯電話に送信しておく

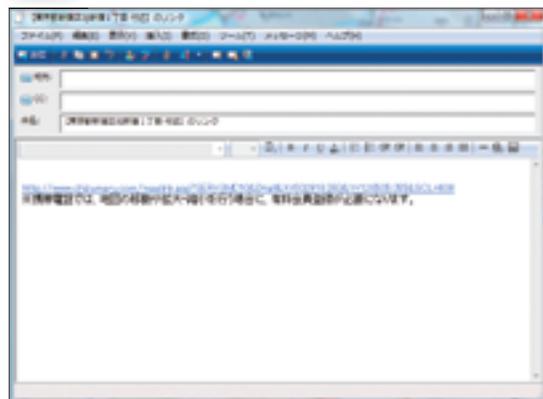
ことで、いつでも必要なときに気になった場所の地図をチェックできるようになります。

1 [ケータイURL] をクリックする



[メール] グループにある [ケータイURL] ボタンをクリックすると、現在の地図表示位置を閲覧できるURLが記された電子メール作成画面が表示されます。

2 電子メールを作成して送信する



メール作成画面は通常使うメールソフトに設定されているソフトウェアで起動します。アドレスと利用時の注意のみ記載されているので、宛先や本文を入力して送信しましょう。